

会長講演

会長講演 「いま、緩和医療にできること」

10月4日(土) 8:50-9:20 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 加藤 裕久(昭和大学 薬学部 医薬情報解析学部門)

演者: 荒木 博陽(愛媛大学医学部附属病院薬剤部)

特別講演

特別講演 1 神経障害性疼痛におけるグリアの役割

10月4日(土) 13:40-14:40 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 荒木 博陽(愛媛大学医学部附属病院薬剤部)

演者: 井上 和秀(九州大学大学院薬学研究院・薬理学分野)

特別講演 2 拡がるエピジェネティック疾患

10月5日(日) 9:10-10:10 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学教室)

演者: 牛島 俊和(国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野)

特別企画

特別企画 がん患者が語る『痛み』

10月4日(土) 11:20-12:20 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 長檜 巧(愛媛大学医学部附属病院 麻酔・周術期学)

演者: 松本 陽子(NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)

シンポジウム

シンポジウム 1 次世代型“包括的緩和医療”に向けて

10月4日(土) 9:20-11:20 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学教室)
鈴木 勉(星薬科大学 薬学部)

- S1-1 転換期を迎える終末期医療:「多死時代」への対応
月山 淑(和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター緩和ケア部門)
- S1-2 オピオイド鎮痛薬の「真実」と期待される次世代型オピオイド鎮痛薬
鈴木 勉(星薬科大学 薬学部)
- S1-3 予後予測が困難な非がんの終末期とこれからの緩和医療
高薄 敏史(獨協医科大学 医学部 麻酔科講座)
- S1-4 脳内快楽ネットワークの活性化による痛みの固定化の“融解”と免疫賦活への足がかり
成田 年(星薬科大学 薬理学教室)

シンポジウム 2 がん・緩和ケア領域における薬薬薬学連携の輪(つながり) - いまとこれから -

10月4日(土) 9:20-11:20 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長: 川添 哲嗣(南国病院)
福岡 竜逸(医療法人 住友別子病院 薬剤部)

- S2-1 地方大学病院における薬薬学連携のつながり
飛鷹 範明(愛媛大学 医学部 附属病院 薬剤部)
- S2-2 当院における薬薬連携の現状と在宅等へ関わり
星加 寿子(医療法人 住友別子病院 薬剤部)
- S2-3 保険薬局薬剤師と病院薬剤師の顔の見える連携緩和医療情報交換会を通じて
松谷 優司(株式会社ホロン すずらん薬局グループ)
- S2-4 長崎での緩和ケア連携 -病院・地域をつないで-
佐田 悦子(アクア薬局本店 管理薬剤師)
- S2-5 患者、地域住民、薬剤師の利益に繋がる薬薬学連携へ -地方大学薬学部の試み-
山口 巧(松山大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター(医療薬学))

シンポジウム 3 MD アンダーソンがんセンターで学んだ チーム医療の展望～自施設のチーム医療は進んだか～

10月4日(土) 9:20-11:20 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 松岡 順治(岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学病院 緩和支援医療科)
河添 仁(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)

- S3-1 外来化学療法チームにおける薬剤師の担う役割と展望
河添 仁(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)
- S3-2 チーム医療の展開、薬剤師の場合
橋本 浩伸(国立がん研究センター中央病院 薬剤部)
- S3-3 血液腫瘍患者への食事提供制限緩和の取り組み～看護師の役割拡大に焦点を当てて～
千葉 育子(独立行政法人 国立がん研究センター東病院 看護部)
- S3-4 大学病院でのチーム医療の実践
大内紗也子(京都大学医学部附属病院 看護部)
- S3-5 岡山大学病院におけるチーム医療マインドの醸成と成果
松岡 順治(岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学病院 緩和支援医療科)

シンポジウム 4 どこにいても切れ目のない医療のために、どうつなぎ、どうつなされるか?

10月4日(土) 9:20-11:20 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 門谷 靖裕(湘南鎌倉総合病院 薬剤部)

- S4-1 病院⇄在宅医療のシームを考える
日下部明彦(みらい在宅クリニック)
- S4-2 その人らしい療養生活を支援する～相談室の役割～
金井 緑(横浜市立みなと赤十字病院 医療連携センター 療養・福祉相談室)
- S4-3 どこにいても切れ目のない医療のために～病院薬剤師として出来ること～
宮崎 百合(横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部)
- S4-4 保険薬局からの退院時共同指導参加と在宅持続注射への関わり
齊藤 直裕(ゆう薬局、薬剤師)

シンポジウム 5 抗がん剤の副作用対策

10月4日(土) 9:20-11:20 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)
酒井 寛泰(星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門)

- S5-1 抗がん剤による末梢神経障害の対策
江頭 伸昭(九州大学病院 薬剤部)
- S5-2 抗がん剤による口内炎の症状改善に役立つ漢方薬、半夏瀉心湯
: 基礎および臨床研究の成果をもとに
上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)
- S5-3 抗がん剤による消化管障害～5-fluorouracil 投与時の下痢発症における好中球の関与～
酒井 寛泰(星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門)
- S5-4 抗がん剤耐性獲得ヒト非小細胞肺癌細胞の形質転換に伴う増悪化機構の解析
葛巻 直子(星薬科大学 薬理学教室)

シンポジウム 6 がん性悪液質の最前線～基礎から臨床をつなぐ～

10月4日(土) 9:20-11:20 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 東口 高志(藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座)
川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

- S6-1 がん悪液質発症の分子メカニズムとその治療薬への応用
大澤 匡弘(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 神経薬理学分野)
- S6-2 がん悪液質の病態と治療の進歩 - 空腹ホルモングレリンを中心に
乾 明夫(鹿児島大学大学院歯学総合研究科 社会・行動医学講座 心身内科学分野)
- S6-3 管理栄養士の視点からみた悪液質の予防及び進展抑制のための栄養管理
利光久美子(愛媛大学医学部附属病院栄養部)
- S6-4 がん性悪液質の代謝学的解析と進展抑制への可能性について
二村 昭彦(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム薬剤課)

シンポジウム 7 痛みの発現と増悪化のマルチアングルな捉え方

10月4日(土) 14:40-16:40 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学教室)
中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

- S7-1 痛みの発現、広がりと同定: 激痛によるマイクロ環境の変容とネットワーク破綻
中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)
- S7-2 痛みの日内リズム: 時間疼痛学の臨床応用
井関 雅子(順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座)
- S7-3 痛みの細胞記憶: 積極的な先行除痛の有用性
成田 年(星薬科大学 薬理学教室)
- S7-4 痛みに対する脳の応答: 痛みを抵抗する脳
仙波恵美子(大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科)

シンポジウム 8 緩和ケア普及啓発事業イベントのエッセンス 「緩和医療の臨床 Q & A」

10月4日(土) 13:40-15:40 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長: 東口 高志(藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座)
川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

- S8-1 緩和ケア普及啓発事業 in 東海の概要
塩川 満(総合病院 聖隷浜松病院)
- S8-2 オピオイドを初めて処方するときの留意点
下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)
- S8-3 アカシジア発現の初期症状(精神科医)
内藤 宏(藤田保健衛生大学 医学部 精神神経科学講座)
- S8-4 在宅で苦痛コントロールをするコツ
姜 琪鎬(みどり訪問クリニック)
- S8-5 緩和ケア普及啓発の key となる人材の育成
川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

シンポジウム 9 メサドンの基礎から臨床まで

10月4日(土) 13:40-15:10 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 国分 秀也(北里大学病院 薬剤部)
久原 幸(手稲溪仁会病院がん治療管理センター緩和ケア室)

S9-1 メサドンの薬理学的特徴

大澤 匡弘(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 神経薬理学分野)

S9-2 メサドンの薬物動態的特徴

国分 秀也(北里大学病院 薬剤部)

S9-3 メサドンはどう使われているか?

山口 崇(神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター(緩和支援治療科))

S9-4 メサドン使用の実際と展望

瀧川千鶴子(KKR札幌医療センター 緩和ケア科)

シンポジウム 10 入院麻薬自己管理の現状と将来に向けて ～問題点とROO(rapid onset opioid)の適正使用を考える～

10月4日(土) 13:40-15:10 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 富安 志郎(医療法人光仁会 西田病院)
八本久仁子(独立行政法人国立病院機構 柳井医療センター)

S10-1 入院患者における医療用麻薬自己管理の現状

武智 宣佳(独立行政国立病院機構四国がんセンター 薬剤科)

S10-2 入院患者における医療用麻薬のレスキュー自己管理に向けて ～プロトコルの構築と色々な視点から見えてきた問題点～

形部 文寛(独立行政法人 国立病院機構 東広島医療センター 薬剤科)

S10-3 レスキュー製剤の自己管理に対する現状と課題

高田 慎也(独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター 薬剤科)

S10-4 オピオイドレスキュー薬の役割と選択、そして自己管理を進めるために

富安 志郎(医療法人光仁会西田病院麻酔科)

シンポジウム 11 緩和ケアにおける代替医療への期待

10月4日(土) 13:40-15:40 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 磯濱洋一郎(東京理科大学 薬学部)
高濱 和夫(熊本保健科学大学 保健科学部)

S11-1 QOL低下の原因となる水分代謝異常を是正する五苓散の作用特性を支える分子: アクアポリン

磯濱洋一郎(東京理科大学 薬学部)

S11-2 抗がん剤誘発末梢神経障害と漢方薬

江頭 伸昭(九州大学病院 薬剤部)

S11-3 がん患者のQOLを維持・向上させる代替医療、補完療法としての漢方薬 —基礎・臨床研究を通して明らかになってきたエビデンス—

上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)

S11-4 精油ならびに精油成分の疼痛緩和作用の解析

桑波田日香里(ARTE AROMATICA)

シンポジウム 12 Palliative care から Supportive oncology へ

10月4日(土) 13:40-15:40 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F大会議室))

座長: 吉澤 一巳(東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室)
山田 岳史(日本医科大学 外科)

S12-1 副作用の少ない制がん剤の創製を目指した創薬研究について

高澤 涼子(東京理科大学 薬学部)

S12-2 がん集学的医療の副作用管理における薬剤師の役割

伊東 俊雅(東京女子医科大学病院 薬剤部)

S12-3 オピオイドの導入と栄養治療の標準化

山田 岳史(日本医科大学 消化器外科)

S12-4 胃癌根治手術後の栄養サポートの重要性

今村 博司(市立豊中病院 上部消化管外科)

シンポジウム 13 がん哲学外来・対話カフェの使命 ～がんと共に生きる勇気に寄り添う～

10月4日(土) 15:10-16:40 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 A)

座長: 岡本 禎晃(市立芦屋病院 薬剤科)
沼田千賀子(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

S13-1 "勝海舟記念下町浅草がん哲学外来" 浅草モデル

～地域の拠点としての薬局、地域の中の相談役として頼りにされる薬剤師を目指して

宮原富士子(NPO法人 Healthy Aging Projects for Women(NPO法人 HAP))

S13-2 がん哲学カフェ in UK & 緩和ケアの祖を訪ねて

沼田千賀子(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

S13-3 がん哲学外来の使命 ～偉大なるお節介症候群の蔓延化～

樋野 興夫(順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座)

シンポジウム 14 がん治療における処方連携の問題点と進展に向けて - がん診療連携拠点病院、調剤薬局、患者、三者の連携 -

10月4日(土) 15:10-16:40 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 B)

座長: 薬師神芳洋(愛媛大学医学部臨床腫瘍学
中国四国がんプロフェッショナル養成コンソーシアム)

S14-1 がん治療における処方連携の問題点～保険調剤薬局へのアンケート結果を元に～

矢野 琢也(医療法人 住友別子病院 薬剤部)

S14-2 がん治療における処方連携の問題点と進展に向けて(調剤薬局の立場から)

宇田 雅実(コスモ薬局)

S14-3 医薬連携により期待される利益と現状の課題と対策を探る(拠点病院の医師の立場から)

原田大二郎(独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 呼吸器内科)

S14-4 がん患者が望む連携～患者の立場から～

三好 綾(NPO法人がんサポートかごしま)

シンポジウム 15 「在宅医療推進に向けた課題 ～医療用麻薬を患者さんの為に～」

10月5日(日) 10:10-12:10 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 加賀谷 肇(明治薬科大学 臨床薬剤学教室)
鈴木 勉(星薬科大学 薬品毒性学教室)

S15-1 「在宅医療における薬剤師の役割」

村上 智彦(NPO 法人ささえる医療研究所)

S15-2 地域医療連携を支える薬剤師の役割 ～麻薬地域連携シートの活用～

塩川 満(総合病院 聖隷浜松病院)

S15-3 薬局の立場で在宅緩和ケアを支えるために～特に医療用麻薬の供給体制について考える～

前田 桂吾(株式会社フロンティアファーマシー ファーマシー事業部)

S15-4 医療用麻薬の利用促進について

高橋 真一(厚生労働省 医薬食品局 監視指導・麻薬対策課)

シンポジウム 16 診療報酬改定から見た在宅医療の今後 ～健康保険・介護保険対策委員会企画～

10月5日(日) 9:10-11:10 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 稲葉 一郎((株)ハートフェルト 薬局セントラルファーマシー長嶺)
鈴木 順子(北里大学薬学部薬学教育研究センター社会薬学部門)

S16-1 在宅患者訪問薬剤管理指導料の見直しによる適正化による影響

高橋 眞生(カネマタ薬局)

S16-2 無菌製剤処理加算の対象範囲の評価と在宅医療にて使用できる注射薬の拡大

萩田 均司(有限会社メディフェニックスコーポレーション 薬局つばめファーマシー)

S16-3 在宅における特定保険医療材料・衛生材料の供給体制について

向井 大貴(熊本県健康福祉部健康局薬務衛生課)

S16-4 病院薬剤師としての在宅緩和医療への関わり

西澤さとみ(飯山赤十字病院 薬剤部)

S16-5 緩和医療と薬局薬剤師 -医療保険、介護保険から展望する-

鈴木 順子(北里大学 薬学部)

シンポジウム 17 外来緩和医療をもっと身近に-全人的苦痛の中の精神的苦痛を中心に・メディカルスタッフの役割-

10月5日(日) 9:10-11:10 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 北村 佳久(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床薬剤学)
松尾 宏一(福岡大学 薬学部)

S17-1 外来での臨床心理士の取り組みと今後の展望について

今村 隆(倉敷中央病院 総合診療科 緩和ケアチーム)

S17-2 早期からの緩和ケアは外来看護師がつなぐことから始まる

～乳がん診断時から多職種間で連携することの重要性～

永山 夕水(彦根市立病院 看護部 外来)

S17-3 外来で薬剤師のできること ～その一歩先へ～

鍛冶園 誠(岡山大学病院 薬剤部 麻薬管理室)

S17-4 抗がん剤投与による精神機能変化 -基礎研究成果からの患者対応への提案-

北村 佳久(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床薬剤学)

シンポジウム 18 研究推進委員会企画：次世代型包括的緩和医療における薬剤師に必要な「科学的知識」の整理と臨床研究に臨む“頭”の作り方

10月5日(日) 9:00-11:00 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長：徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)
中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S18-1 日本緩和医療薬学会研究推進委員会による研究活動支援：大学の活用法

徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)

S18-2 薬剤師が研究できない実情とその打破のためのヒント(社会調査を実践するために)

川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本)

S18-3 薬剤師は知識を現場で十分に活かしているのか～病院薬剤部の立場から～

龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部)

S18-4 薬剤部でしかできない“活きた臨床研究”の勧め

中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S18-5 科学的情報共有がもたらす次世代型包括的緩和医療の促進

：昔と同じ思考性やスタイルではもう限界である！

鳥越 一宏(星薬科大学 薬学部 実務教育研究部門)

シンポジウム 19 緩和薬物療法認定薬剤師の取得と更新に向けて －症例報告書の書き方と薬学的管理の実際－

10月5日(日) 9:00-11:00 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長：直良 浩司(島根大学医学部附属病院 薬剤部(認定委員会))
平山 武司(北里大学東病院 薬剤部(認定委員会))

S19-1 認定薬剤師の申請および更新時の注意点

平山 武司(北里大学東病院 薬剤部)

S19-2 症例報告の書き方/病院薬剤師における症例報告のよい例、悪い例

小宮 幸子(横浜市立大学附属病院 薬剤部)

S19-3 保険薬局における症例報告の良い例、悪い例

加藤 久勝(玉造眞鍋薬局)

S19-4 症例報告作成にあたって(保険薬局薬剤師)

原田 寿(株式会社フロンティアファーマシー フロンティア薬局浅草橋店)

S19-5 病院における認定薬剤師の関わりと症例報告書の書き方

今井 絵理(JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤部)

シンポジウム 20 難治性疼痛に対する多職種アプローチ

10月5日(日) 13:30-15:30 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 久保 速三(京都医療センター 緩和ケア科)
下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)

S20-1 下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)

S20-2 難治性の痛み
～薬剤師の視点から～

田邨 保之(京都医療センター 薬剤科)

S20-3 難治性の痛みに対する多職種アプローチ:在宅医としての関わり

大江 公晴(なごや東在宅ケアクリニック)

S20-4 精神科医からみた痛みへの多職種アプローチ

西原 真理(愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター)

S20-5 トータルペインとして多職種でサポートする～訪問看護の立場から

宇野さつき(医療法人社団 新国内科医院)

シンポジウム 21 フェンタニル速放製剤の安全な臨床活用に向けて

10月5日(日) 13:30-15:30 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 富安 志郎(医療法人光仁会西田病院麻酔科)
伊勢 雄也(日本医科大学付属病院薬剤部)

S21-1 フェンタニル速放性製剤の院内適正使用への取り組み

高橋麻利子(東京女子医科大学病院 薬剤部)

S21-2 フェンタニル速放製剤の安全な臨床活用に向けて

服部 雅美(東京女子医科大学病院 看護部)

S21-3 フェンタニルクエン酸塩舌下錠を安全に運用するための緩和ケアチームの取り組み

加藤あゆみ(日本医科大学付属病院 緩和ケアチーム 薬剤部)

S21-4 突出痛に対する新しいレスキュー適正使用への取り組み

鈴木 規仁(日本医科大学 麻酔科学教室)

シンポジウム 22 「学術論文に投稿しよう! -知っとくと得する投稿から受理までの道標-

10月5日(日) 13:30-15:30 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 小野 秀樹(武蔵野大学 薬学部(緩和医療薬学会 編集委員会))
徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室(緩和医療薬学会 編集委員会))

S22-1 論文に投稿するということは?

徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)

S22-2 論文の投稿から受理までのシステムとは -緩和医療薬学雑誌を例として-

小野 秀樹(武蔵野大学 薬学部(緩和医療薬学会 編集委員会))

S22-3 実際に論文に投稿してみよう -審査過程におこる様々な疑問点の解消を目指して

岡本 禎晃(市立芦屋病院 薬剤科)

S22-4 実際に論文に投稿してみよう -統計について考える-

波多江 崇(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

シンポジウム 23 働く世代のがん治療と日常生活の両立を支援するための薬学的アプローチを考える

10月5日(日) 13:30-15:30 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 木村 和哲(名古屋市立大学 大学院医学研究科 臨床薬学分野)
若尾 文彦(国立がん研究センター がん対策情報センター)

S23-1 第2期がん対策推進基本計画策定後の動きー働く世代へのがん対策の充実を中心に
若尾 文彦(国立がん研究センター がん対策情報センター)

S23-2 緩和ケアサロンに集う働く世代のその後の歩み

阿部まゆみ(名古屋大学 大学院 医学系研究科 看護学専攻 がんプロフェッショナル
養成基盤推進プラン)

S23-3 働く世代のがん治療と日常生活を支援するー緩和ケアチーム薬剤師の立場からー

龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部)

S23-4 働く世代のがん治療と日常生活を支援するための薬剤師の取り組み

川出 義浩(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 病院薬学分野)

シンポジウム 24 緩和ケア教育における専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)の現状と将来展望

10月5日(日) 13:30-15:30 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)
細谷 治(城西大学 薬学部)

S24-1 薬学部が先導する在宅がん医療・緩和ケアの大学間連携多職種協働教育の試み

中嶋 幹郎(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)

S24-2 合意形成を学ぶ千葉大学亥鼻 IPE

石井伊都子(千葉大学 医学部附属病院 薬剤部)

S24-3 医系総合大学の特色を活かしたチーム医療教育カリキュラムと緩和ケア教育

木内 祐二(昭和大学 薬学部)

S24-4 「緩和医療学・IPW 演習」-緩和ケア教育における専門職連携教育の可能性について-

細谷 治(城西大学 薬学部)

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1 日本のがん疼痛治療の現状と今後の新たな取り組みについて ーオキシコドンが果たす役割を踏まえてー

10月4日(土) 12:30-13:30 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 武田 文和(元 埼玉県立がんセンター 総長)
演者: 鈴木 勉(星薬科大学 薬品毒性学教室 教授)

塩野義製薬株式会社

ランチョンセミナー 2 新規オピオイド系鎮痛薬タペンタドールの薬理学的特徴と 鎮痛作用機序

10月4日(土) 12:30-13:30 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長: 加賀谷 肇(明治薬科大学 臨床薬理学 教授)
演者: 中川 貴之(京都大学医学部附属病院薬剤部・准教授/副薬剤部長)

ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー 3 緩和ケアにおける EBM と漢方の融合

10月4日(土) 12:30-13:30 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 加藤 裕久(昭和大学 薬学部 薬物療法学講座 医薬情報解析学部門 教授)
演者: 小枝 淳一(社団法人慈恵会 青森慈恵会病院 医療局長・緩和ケア科総括部長)

株式会社ツムラ

ランチョンセミナー 4 新しい鎮痛薬の登場とオピオイドスイッチングを考える

10月4日(土) 12:30-13:30 第5会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 3F 第6会議室)

座長: 志真 泰夫(公益財団法人 筑波メディカルセンター病院 副院長)

1 メサドン処方の実際について

演者: 松田 良信(宝塚市立病院 副院長・緩和ケア内科部長)

2 がん疼痛鎮痛薬の効果とコストバランスについて

演者: 佐藤 淳也(岩手医科大学附属病院 薬剤部 主任薬剤師)

帝國製薬株式会社 テルモ株式会社

ランチョンセミナー 5 循環器疾患と胸痛について

10月4日(土) 12:30-13:30 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 直良 浩司(島根大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)
演者: 鈴木 純(愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科)

第一三共株式会社

ランチョンセミナー 6 がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して

10月4日(土) 12:30-13:30 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本(株))
 演者: 中矢 孝志(株式会社 ホームメディケア ライフケア薬局東野店)

武田薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 7 フェンタニル速放性製剤をスムーズに導入するためには ～緩和ケアチームの取り組みと薬剤師の役割～

10月5日(日) 12:20-13:20 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 宮本 篤(札幌医科大学 薬剤部長)
 演者: 小宮 幸子(横浜市立大学附属病院薬剤部)

久光製薬株式会社 協和発酵キリン株式会社

ランチョンセミナー 8 緩和医療における不眠診療 ～せん妄に配慮した薬物選択の実際～

10月5日(日) 12:20-13:20 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 千堂 年昭(岡山大学病院)
 演者: 平 俊浩(福山市民病院 精神科・精神腫瘍科 科長)

MSD株式会社

ランチョンセミナー 9 さまざまな痛みに対するオピオイド鎮痛薬の処方を考える ～オピオイドの乱用・依存を防ぐために～

10月5日(日) 12:20-13:20 第5会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 3F 第6会議室)

座長: 加賀谷 肇(明治薬科大学 臨床薬理学教室 教授)
 演者: 細川 豊史(京都府立医科大学大学院 疼痛・緩和医療学講座 病院教授)

大日本住友製薬株式会社

ランチョンセミナー 10 新しい経口糖尿病治療薬の登場とチーム医療

10月5日(日) 12:20-13:20 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 平井みどり(神戸大学医学部附属病院)
 演者: 宮岡 弘明(済生会松山病院 院長)

大正富山医薬品株式会社

ランチョンセミナー 11 がん化学療法に伴う末梢神経障害 ～医療チームで症状をどう緩和していくか～

10月5日(日) 12:20-13:20 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 片山 志郎(日本医科大学付属病院 薬剤部 薬剤部長)
 演者: 仁科 智裕(独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 消化器内科 医長)

日医工株式会社

坊っちゃんセミナー（モーニング）

坊っちゃんセミナー 1 持続痛を制する者だけが突出痛を制する ～フェンタニル口腔粘膜吸収剤のほんとうの使い方～

10月5日(日) 8:00-9:00 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 塩川 満(聖隷浜松病院 薬剤部 部長)
演者: 余宮きのみ(埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長)

大鵬薬品工業株式会社

坊っちゃんセミナー 2 オピオイドの臨床薬理 ～がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン解説～

10月5日(日) 8:00-9:00 第5会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 3F 第6会議室)

座長: 荒木 博陽(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 部長)
演者: 国分 秀也(北里大学病院 薬剤部 課長補佐)

田辺三菱製薬株式会社

坊っちゃんセミナー 3 認知症の人の看取り ～本人の生き方に向き合う医療をめざして～

10月5日(日) 8:00-9:00 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 田中 亮裕(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)
演者: 永井 康德(医療法人ゆうの森たんぼクリニック)

エーザイ株式会社

ワークショップ

一参加型ワークショップ

テーマ 緩和医療に求められる薬物療法の介入と副作用対策 - はじめの一步

10月5日(日) 9:00-11:30 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

オーガナイザー:

- 片山 志郎(日本医科大学付属病院 薬剤部)
- 平井みどり(神戸大学医学部附属病院 薬剤部)
- 井手口直子(帝京平成大学 薬学部)
- 高瀬 久光(北陸大学 薬学部)

講師: ○片山 志郎(日本医科大学付属病院 薬剤部)
○平井みどり(神戸大学医学部附属病院 薬剤部)

教育セミナー

教育セミナー 1

10月3日(金) 15:00-17:00 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

①-1 「リンパ浮腫」

講師：作田 裕美(大阪市立大学大学院)

①-2 「大腸癌の化学療法と支持療法の実際」

講師：佐藤 淳也(岩手医科大学附属病院)

教育セミナー 2

10月3日(金) 17:15-19:15 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

②-1 「アドバンス・ケア・プランニング」

講師：阿部 泰之(旭川医科大学病院)

②-2 「オピオイド鎮痛薬の依存を回避するために」

講師：鈴木 勉(星薬科大学)

市民公開講座

がんと向き合う人のために ～「痛い」を伝えるとき～

10月3日(金) 12:45-14:30 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長：薬師神芳洋(愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター長)
松本 陽子(NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長)

はじめに～緩和ケア普及啓発について～

塩川 満(特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 理事)

演者：的場 元弘(青森県立中央病院 緩和医療科部長)
村上 通康(緩和薬物療法認定薬剤師 松山赤十字病院薬剤部薬剤管理指導課長)
宇田 雅実(一般社団法人愛媛県薬剤師会常務理事 コスモ薬局開設者)
林 博美(愛媛大学医学部附属病院看護部 緩和ケア認定看護師)
大西 智子(愛媛がんサポートおれんじの会 事務局長)

口頭発表

口頭発表1 オピオイドに関する症例報告 4題

10月4日(土) 9:15-10:15 第5会場(愛媛県県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 池田 龍二(鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 薬剤部)
泉谷 悟(広島大学病院 薬剤部)

01-1 モルヒネによるOddi括約筋収縮から胆汁うっ滞を生じたと考えられる1例

○矢野 琢也¹⁾、星加 寿子¹⁾、福岡 竜逸¹⁾、上野 智美¹⁾、武田 靖志²⁾、松村 周治³⁾、
二宮 崇⁴⁾、亀井 治人⁴⁾
住友別子病院 薬剤部¹⁾、住友別子病院 耳鼻咽喉科²⁾、住友別子病院 消化器内科³⁾、
住友別子病院 腫瘍内科⁴⁾

01-2 フェンタニル貼付剤からメサドンへのオピオイドスイッチングが有効であった一症例

○近藤 有¹⁾、植松 夏子¹⁾、今井 絵理¹⁾、田中 沙耶¹⁾、柴原 弘明^{2,3)}、吉田 厚志¹⁾
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤部¹⁾、JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 緩和ケア科²⁾、
おかもとクリニック³⁾

01-3 高用量のオキシコドン、フェンタニルによって疼痛緩和できた症例

○森 正徳、末吉 栄志、山室 路子、横山亜希子、田中 泉、喜多岡洋樹、後藤由起子、
吉田 愛、永田 理恵、近藤 元三
熊本市立熊本市市民病院 薬剤課

01-4 メサドン塩酸塩錠のタイトレーション期にモルヒネ塩酸塩注を併用した一例

○堀 麻衣¹⁾、牛島 美里¹⁾、近谷 仁志¹⁾、里 幸¹⁾、河井 俊²⁾、緒方 泉²⁾、
仁木美枝子²⁾、岩佐 美佳²⁾、蓮池 典明²⁾
医療法人薫風会 佐野病院 診療技術部 薬局¹⁾、
医療法人薫風会 佐野病院 緩和ケアサポートチーム²⁾

口頭発表2 在宅緩和ケアにおける症例報告および医薬品適正使用の推進 6題

10月4日(土) 9:15-10:45 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長: 稲葉 一郎(薬局セントラルファーマシー長嶺)
竹内 尚子(トライアドジャパン(株)かもめ薬局北里健康館)

02-1 疼痛コントロールの重要な要素アドヒアランス ～残薬の多い患者の予測できなかった背景～

○秋山 理恵¹⁾、徳永 素子²⁾、永田 智子³⁾、立松三千子^{4,5)}
三聖堂薬局 自由ヶ丘店¹⁾、津島市民病院 薬剤室²⁾、
愛知県がんセンター中央病院 外来看護部³⁾、愛知県がんセンター中央病院 薬剤部⁴⁾、
名城大学大学院薬学研究科⁵⁾

02-2 在宅における前立腺がん患者のADL向上が得られた緩和ケア支援

○相宮 幸典、杉浦 伸哉、岡田 啓、植田 恵子、中島 広貴、指宿 城、糸川 知沙
株式会社 スギ薬局

02-3 在宅緩和ケアに携わる薬剤師が患者の暮らしを支えるために果たすべき役割について

○斎藤 優子¹⁾、中村 治正²⁾
(株)大新堂 フタツカ薬局 在宅支援室¹⁾、なかむらクリニック²⁾

02-4 在宅がん終末期患者のせん妄に対する保険薬局薬剤師の支援

○餅原 弘樹、醍醐 智子、秦野 和樹、平野 統久、杉浦 伸哉
株式会社 スギ薬局

02-5 薬剤師の居宅療養指導を拒否した症例に対する緩和ケア支援

○竹原 祐子^{1,5)}、山中 豊太²⁾、須田 勝久³⁾、深田恵美子⁴⁾、太田 義穂⁵⁾、山本 恵美⁵⁾、
藤井 伸昌⁵⁾、吉原 直希⁵⁾、山本 智永⁵⁾、谷口 誉子⁵⁾、二宮 洋一⁵⁾
スギ薬局 井田店¹⁾、山中クリニック²⁾、須田クリニック³⁾、
訪問看護ステーション さくらの里⁴⁾、岡崎在宅・介護委員会⁵⁾

02-6 持続注入計算エクセルシートを用いた共同薬物治療管理

○宇野 達也、柴田 賢三
ヤナセ薬局 在宅医療部

口頭発表 3 オピオイドの使用状況調査 3 題

10月4日(土) 10:15-11:00 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長：川出 義浩(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 医療機能薬学専攻病院薬剤学分野)
内田まよこ(九州大学病院 薬剤部)

03-1 当院でのメサペイン[®]錠の使用状況と効果・副作用について

○橋本 百世¹⁾、正置 耕一¹⁾、近藤万友美¹⁾、森田 聡子¹⁾、松田 良信²⁾、辻 隆志¹⁾
宝塚市立病院 薬剤部¹⁾、緩和ケア内科²⁾

03-2 当院におけるオキシコドン注射液の使用状況に関する調査 - オキシコドン注射液へのオピオイドローテーション -

○郷治 久美¹⁾、高島 直樹¹⁾、深津 昌弘¹⁾、山本 磨理¹⁾、水元 弥生²⁾、成瀬 和仁²⁾、
稲垣 和美²⁾、大河内 治³⁾、澤田 憲朗⁴⁾、太田 美雪⁵⁾、鷹見 繁宏¹⁾
公立陶生病院 薬剤部¹⁾、公立陶生病院 緩和ケアセンター²⁾、公立陶生病院 外科³⁾、
公立陶生病院 緩和ケア内科⁴⁾、公立陶生病院 神経精神科⁵⁾

03-3 新しい視点からの薬剤師主導オピオイド処方監査：WHO ガイドライン処方の原則を普及啓発させるために

○久田 純生¹⁾、増田 由樹¹⁾、長谷川 徹²⁾、吉本 鉄介³⁾、伊藤 和幸¹⁾、磯谷 聡¹⁾
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 薬剤部¹⁾、
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 看護部²⁾、
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 緩和支援治療科³⁾

口頭発表 4 緩和ケア外来 3 題

10月4日(土) 10:45-11:30 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長：篠 道弘(静岡県立静岡がんセンター 薬剤部)
佐藤 淳也(岩手医科大学附属病院 薬剤部)

04-1 緩和ケア外来における薬剤師の介入とその評価(第2報)

○稲角 利彦¹⁾、薩摩由香里¹⁾、左近 絢子¹⁾、金剛 圭佑⁴⁾、大音三枝子¹⁾、北田 徳昭¹⁾、
梅田 節子²⁾、李 美於³⁾、橋田 亨¹⁾
神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部¹⁾、神戸市立医療センター中央市民病院 看護部²⁾、
神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科³⁾、神戸低侵襲がん医療センター 薬剤部⁴⁾

04-2 緩和ケアチーム薬剤師の緩和ケア外来同席の有用性

○根岸美由紀^{1,2)}、小暮三千代²⁾、内田 宜伯^{1,2)}、小杉 成樹²⁾、増茂 仁²⁾、
馬場 章²⁾、麻生 一郎¹⁾、伊藤 博²⁾
深谷赤十字病院 薬剤部¹⁾、深谷赤十字病院 緩和ケアチーム²⁾

04-3 緩和ケア外来において薬・薬連携が服薬アドヒアランス改善に有用であった1例

○奥田 泰考¹⁾、本田 泰斗²⁾、荒川 昌史¹⁾、須藤 俊明¹⁾
自治医科大学附属病院 薬剤部¹⁾、フレンド薬局 自治医大東店²⁾

口頭発表 5 オピオイドの痛みの評価および適正使用の推進 5 題

10月4日(土) 11:00-12:15 第5会場(愛媛県県民文化会館 3F 第6会議室)

座長：芝崎由美子(埼玉県立がんセンター 薬剤部)
嶋 元(しま薬局)

05-1 神経障害性疼痛に対するメサドン塩酸塩錠の有効性に関する後方視的検討

○杉山 洋介^{1,3)}、近藤 勝弘¹⁾、手崎 世織¹⁾、竹本 将士¹⁾、川出 義浩⁶⁾、鬼塚 真美^{2,3)}、
坂本 宣弘^{3,4)}、木村 和哲^{1,5,6)}
名古屋市立大学病院 薬剤部¹⁾、名古屋市立大学病院 看護部²⁾、
名古屋市立大学病院 緩和ケア部³⁾、名古屋市立大学病院 消化器一般外科⁴⁾、
名古屋市立大学 医学部 臨床薬剤学⁵⁾、名古屋市立大学 薬学部 病院薬剤学⁶⁾

05-2 オキシコンチン® からフェントス® へのオピオイドローテーションにおける初回増量までの期間に影響を与える要因の検討

○井手野下裕子、森川 記道、横山 匠太、福長 豊己、原田 靖子、西原 昌幸
マツダ株式会社 マツダ病院 薬剤部

05-3 簡便な換算比を用いたオキシコドン注射剤のオピオイド・スイッチングに関する臨床的検討

○宮原 強^{1,3)}、小杉 寿文^{2,3)}、仁田 亜由美⁴⁾、八谷 由紀^{1,3)}、日浦 あつ子³⁾、
森 直美³⁾、松永 尚^{1,3)}
佐賀県医療センター 好生館 薬剤部¹⁾、同 緩和ケア科²⁾、同 緩和ケアチーム³⁾、
大分県済生会 日田病院 麻酔科⁴⁾

05-4 在宅緩和ケアにおける他職種連携の中で取り組む疼痛評価と意識調査

○小林 篤史、池上 摩弥、武田紗代子
ゆう薬局グループ

05-5 オピオイド換算ソフトの作成と作成後の評価

○須藤 弥生、品川 理加、猿井 智美、土屋 道代、前島 和俊
前橋赤十字病院 薬剤部

口頭発表 6 地域連携推進に向けた取り組み 3 題

10月4日(土) 11:30-12:15 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長: 高瀬 久光(北陸大学 薬学部臨床薬学教育センター)
千原 里美(市立伊丹病院 薬剤部)

06-1 地域緩和ケアチームとの薬・薬連携による取り組み～緩和薬物療法認定薬剤師が行う支援を通して～

○枝廣 茂樹¹⁾、小林 星太²⁾、松波 寿雄¹⁾、大川 浩子¹⁾
金沢赤十字病院 薬剤部¹⁾、とくひさ中央薬局²⁾

06-2 骨修飾薬関連顎骨壊死対策のためのお薬手帳を介した開業歯科医との情報共有

○石塚 友一¹⁾、福永 暁子²⁾、川村 和美¹⁾、塩川 満¹⁾
聖隷浜松病院 薬剤部¹⁾、聖隷浜松病院 歯科²⁾

06-3 薬剤師サマリー作成の試み

○齋藤 俊子、三浦 誠
洛和会音羽病院 薬剤部

口頭発表 7 オピオイド適正使用推進による医療安全の推進 5 題

10月4日(土) 13:45-15:00 第5会場(愛媛県県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 高橋浩二郎(北九州総合病院)
竹内 信人(市立宇和島病院 薬局)

07-1 メサドンの適正・安全使用に向けた PCT 薬剤師の取り組み

○小川 智子^{1,2)}、松田 能宜^{2,4)}、武田 ヒサ^{2,3)}、小杉 孝子^{2,4)}、谷本 陽子^{1,2)}、
古川 順章^{1,2)}、小林 勝昭¹⁾、所 昭宏^{2,4)}
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 薬剤科¹⁾、
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 支持・緩和療法チーム²⁾、
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 看護部³⁾、
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 心療内科⁴⁾

07-2 フェンタニル速放性製剤適正使用における緩和ケアチーム・薬剤師の取り組み

○津田 尚始^{1,2)}、徳丸 歩子^{1,2)}、利根川小春¹⁾、金 明俊¹⁾、黒須 智博¹⁾、
立石 朝子^{1,2)}、永嶋 一貴¹⁾、小島 彩子²⁾、戸田 陽子²⁾、有岡 仁³⁾、松田 俊之¹⁾
労働者健康福祉機構 横浜労災病院 薬剤部¹⁾、
労働者健康福祉機構 横浜労災病院 緩和ケアチーム²⁾、
労働者健康福祉機構 横浜労災病院 腫瘍センター³⁾

07-3 シリンジポンプ早送りを用いたオピオイドレスキューの院内指示統一化前後の運用状況の比較検討

○曾根 敦子^{1,2)}、齋藤 雄紀^{2,3)}、吉野 和穂^{2,4)}、矢野 広^{2,5)}、長島 聖子^{2,6)}、
堂園 幸子⁶⁾、徳田 裕³⁾
東海大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、東海大学医学部附属病院 緩和ケアチーム²⁾、
東海大学医学部 外科学系 乳腺内分泌外科学³⁾、東海大学医学部 外科学系 呼吸器外科学⁴⁾、
東海大学医学部 専門診療学系 精神科学⁵⁾、東海大学医学部附属病院 看護部⁶⁾

07-4 当院におけるフェンタニルクエン酸塩速放性製剤の適正使用に向けた取り組み

○林 隼輔¹⁾、須田 奈美¹⁾、横田 信幸¹⁾、川久保 孝¹⁾、下山 直人²⁾
東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部¹⁾、東京慈恵会医科大学大学院緩和医療学²⁾

07-5 オピオイド注射剤の処方量固定による医療安全への影響

○荒川 大輔¹⁾、西脇 敦士¹⁾、國枝ひとみ¹⁾、澤井 朝子¹⁾、小園 典子²⁾、
五十川有紀子²⁾、春日井敏夫³⁾、野田 孝夫¹⁾
蘇西厚生会 松波総合病院 薬剤部¹⁾、蘇西厚生会 松波総合病院 看護部²⁾、蘇西厚生会 松
波総合病院 呼吸器外科³⁾

口頭発表 8 緩和ケアチームにおける活動報告 7 題

10月4日(土) 13:45-15:30 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長：松永 尚(地方(独)佐賀県医療センター好生館)
飛鷹 範明(愛媛大学 医学部附属病院 薬剤部)

08-1 オピオイド使用患者に対する外来服薬支援による再指導の有用性

○井原 将太、栗田 浩文、上條史帆里、近藤 水生、野澤 孝子、多賀 麻衣、万塩 裕之、
中村 和行、米山 英二、勝見 章男
安城更生病院 薬剤部

08-2 外来通院化学療法患者に対する臨床心理士の効果的介入支援

○木村 緑、高木 綾、藤巻奈緒美、中村 和代、中條 倫成、遠藤 一美、多久 佳成、
江藤 尚
静岡県立総合病院 がん診療部 化学療法センター

08-3 緩和ケアにおける薬剤師の薬学的介入と問診の重要性について —精神科病院における緩和ケアチーム結成・身体合併症の症例から—

○山村康比古、寺口 勝久、小黒 夏子、川瀬 公一、與田美穂子、中村 陽子、櫻山 智子、
井戸澤弘美、伊藤 信、灘谷 聡昭
東京都立松沢病院

08-4 当院におけるフェンタニル貼付剤使用状況と緩和ケアチームの関わり

○酒向あずみ¹⁾、吉岡 由佳³⁾、渡邊 温子²⁾、吉田 誠也¹⁾
独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター 薬剤科¹⁾、
独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター 小児科²⁾、
独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター 看護課³⁾

08-5 緩和ケアチームのあるべき姿 —チームの和と行動力で平等な緩和ケアを—

○相澤 康子^{1,6)}、岸川 美輪^{2,6)}、新倉 菊代^{2,6)}、赤松 芳行^{4,6)}、山崎 史織^{2,6)}、
倉田久美子^{1,6)}、磯島 大輔^{5,6)}、長嶺弘太郎^{5,6)}、亀田久仁郎^{5,6)}、須藤 法子^{2,6)}、
南 みゆき^{2,6)}
横須賀市立市民病院 薬剤部¹⁾、横須賀市立市民病院 看護部²⁾、
横須賀市立市民病院 栄養管理科³⁾、横須賀市立市民病院 放射線技術科⁴⁾、
横須賀市立市民病院 医局⁵⁾、横須賀市立市民病院 緩和ケアチーム⁶⁾

08-6 地域病院における緩和ケアチームの2年間の活動報告

○伊藤 剛貴¹⁾、松本 千明¹⁾、飯田 麻衣¹⁾、伊藤 達哉³⁾、黒川奈美子³⁾、内田 栄美⁵⁾、
田中美代子²⁾、松永 和子¹⁾、井坂 茂夫⁴⁾
JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 薬剤部¹⁾、JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 看護部²⁾、
JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 医療技術部³⁾、JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 泌尿器科⁴⁾、
JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 地域医療部⁵⁾

08-7 当院における「オピオイド回診」の取り組みとその評価

○立原 茂樹¹⁾、谷中 敦美¹⁾、鯉沼とも子²⁾、池田美智子²⁾、藤澤 文絵³⁾、三橋 彰一³⁾、
黒澤 豊彦¹⁾、武井 敬司¹⁾
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 薬剤局薬剤科¹⁾、
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 看護局²⁾、
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 腫瘍内科³⁾

口頭発表 9 オピオイドによる有害事象 4 題

10月4日(土) 15:00-16:00 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長：葛巻 直子(星薬科大学 薬理学教室)
宮崎 百合(横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部)

09-1 モルヒネ誘発性便秘症の発症機序における大腸 aqaporin-3 の役割

○今 理紗子、五十嵐信智、三村 綾子、飯笹 朋彦、早川 晃央、羽賀 裕介、笛木 愛華、
落合 和、杉山 清
星薬科大学 薬動学教室

09-2 オキシコドン徐放錠誘発性悪心・嘔吐に対する予防的制吐剤の使用状況とその効果

○久米 初枝¹⁾、宮崎 雅之¹⁾、加藤 博史¹⁾、前田 愛¹⁾、十九浦宏明²⁾、杉下美保子²⁾、
安藤 雄一²⁾、山田 清文¹⁾
名古屋大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、名古屋大学医学部附属病院 化学療法部²⁾

09-3 麻薬使用患者における点滴の自己抜去とせん妄との関連についての検討

○日比 聡¹⁾、長尾 清治^{5,6)}、伊奈 研次^{4,6)}、壁谷めぐみ^{1,6)}、長岡 雅敏^{1,6)}、
新木智映子¹⁾、古賀 千晶^{2,6)}、杉山あけみ⁶⁾、松浦三恵子³⁾、湯浅 周^{1,6)}
名古屋記念病院 薬剤部¹⁾、同看護部²⁾、同医療安全管理部³⁾、同化学療法内科⁴⁾、
同緩和療法科⁵⁾、同緩和ケアチーム⁶⁾

09-4 オピオイド開始後における制吐剤の適正使用の推進

○品川 理加、須藤 弥生、猿井 智美、前島 和俊
前橋赤十字病院 薬剤部

口頭発表 10 緩和ケア教育の推進その他 6 題

10月4日(土) 15:30-17:00 第6会場(愛媛県民文化会館 3F 第8会議室)

座長：井手口直子(帝京平成大学 薬学部)
岩根 裕紀(京都桂病院 薬剤科)

010-1 地域の薬剤師が早期から緩和ケアに係るために ― はじめの一步

○隅田 美紀¹⁾、秋田 浩子²⁾、長谷部千夏³⁾、永治正太郎⁴⁾、鈴木 昇一⁵⁾、曾我 望⁵⁾、
山田 秀樹⁶⁾、山本 有人⁶⁾
中津川市民病院 薬剤部¹⁾、東濃厚生病院 薬剤科²⁾、岐阜県立多治見病院 薬剤部³⁾、
市立恵那病院 薬剤室⁴⁾、岐阜県恵中薬剤師会⁵⁾、岐阜県東濃薬剤師会⁶⁾

010-2 在宅医療における無菌調剤の環境整備に向けての第一歩

○徳山 洋子¹⁾、切土 聡子¹⁾、大森 清孝¹⁾、清水 義博²⁾、小林 篤史³⁾、大町佐千美⁴⁾
社会医療法人岡本病院(財団) 第二岡本総合病院 薬剤部¹⁾、同、外科²⁾、ゆう薬局グループ³⁾、
城南薬剤会 会長 びわ薬局⁴⁾

O10-3 がん疼痛の薬物療法に関する医療従事者の理解度と補助ツールの満足度に関する調査

○後藤 祐美、鈴木 宣雄、木村美智男、西川 智子、竹田 亜子、吉村 知哲、森 博美
大垣市民病院 薬剤部

O10-4 緩和ケア病棟における看護師への教育～薬剤師によるミニレクチャーを通して～

○前川 ゆか¹⁾、二村 昭彦¹⁾、上葛 義浩¹⁾、伊東 知美¹⁾、最上 恵子¹⁾、吉岡 京子¹⁾、
菊川 栄子²⁾
藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 医療技術部 薬剤課¹⁾、
藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 看護部²⁾

O10-5 緩和医療教育の実践を通して見えたこと、考えたこと

○串田 一樹¹⁾、前田 桂吾²⁾、白石 丈也³⁾
昭和薬科大学医薬情報評価教育申田研究室¹⁾、フロンティア薬局²⁾、けや木薬局³⁾

O10-6 抗がん剤治療及び医療用麻薬に関する薬剤師への期待～がん患者のためのチャリティイベントでのアンケート調査より～

○滝澤 康志¹⁾、西澤さとみ¹⁾、花岡 容子²⁾、清野 義一²⁾、田中 健二³⁾、萬谷摩美子⁴⁾
日本赤十字社 飯山赤十字病院 薬剤部¹⁾、JA 北信病院 薬剤部²⁾、
長野県立須坂病院 薬剤科³⁾、愛和病院 薬剤部⁴⁾

口頭発表11 痛みおよびがんの基礎研究 5 題

10月4日(土) 15:45-17:00 第2会場(愛媛県県民文化会館 1F サブホール)

座長：小野 秀樹(武蔵野大学 薬学部)

佐藤健太郎(大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室)

O11-1 不完全な除痛が引き起こす痛みの増悪化の解析：初期除痛や突発痛除痛の重要性和“痛みの細胞記憶”

○大井 香織¹⁾、池上 大悟¹⁾、八重樫香菜子¹⁾、成田 道子¹⁾、葛巻 直子¹⁾、
岡野 栄之²⁾、牛島 俊和³⁾、成田 年^{1,4)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、慶応義塾大学 医学部 生理学教室²⁾、
国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野³⁾、
星薬科大学 先端生命科学研究センター⁴⁾

O11-2 快情動ネットワークの活性化による疼痛制御機構の解析：中脳辺縁 dopamine 神経系の人工的制御による除痛効果

○須原 佑樹¹⁾、渡邊 萌¹⁾、山下 哲¹⁾、池上 大悟¹⁾、葛巻 直子¹⁾、成田 道子¹⁾、
成田 年^{1,2)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、先端生命科学研究センター(L-StaR)²⁾

O11-3 オピオイドの効率的な中枢移行に寄与するコンパニオンドラッグの探索を指向したトランスポーター制御化合物予測モデルの構築

○福島 大介、植沢 芳広、加賀谷 肇
明治薬科大学 臨床薬剤学教室

O11-4 脳によるがん免疫調節機構：症状悪化の一因となる“視床下部オピオイド神経系”の機能低下

○田崎 慶彦^{1,3)}、森田 加奈¹⁾、有馬 崇充¹⁾、成田 道子¹⁾、池上 大悟¹⁾、山下 哲¹⁾、
青木 一教³⁾、成田 年^{1,2)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、先端生命科学研究センター²⁾、
国立がん研究セ・研・遺伝子免疫細胞医学研究分野³⁾

011-5 抗がん剤耐性獲得に伴うがん増悪化メカニズムの解析：ゲフィチニブ耐性ヒト非小細胞肺癌細胞のエピゲノム異常を伴った上皮間葉転換

○志村 絵理¹⁾、成田 道子¹⁾、濱田 祐輔¹⁾、池上 大悟¹⁾、葛巻 直子¹⁾、成田 年^{1,2)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、先端生命科学研究センター (L-StaR)²⁾

口頭発表12 薬物動態および薬物相互作用 3題

10月4日(土) 15:45-16:30 第7会場(看護研修センター 2F 大研修室)

座長：末丸 克矢(就実大学 薬学科)
森 理保(徳島市民病院 薬剤部)

012-1 モルヒネの体内動態に及ぼす摂食制限の影響

○橋本 緑、丸山紗也香、原 裕一、杉野 雅浩、細谷 治、従二 和彦
城西大学 薬学部 薬学科

012-2 トラマドール・アセトアミノフェン配合錠におけるCYP2D6阻害作用をもつ薬剤の影響

○小澤 康久¹⁾、権藤 学司²⁾、田中 江里³⁾、田中 正史⁴⁾、巽 一郎⁵⁾、北川 泉⁶⁾、
大竹 剛靖⁷⁾、山下 理絵⁸⁾、下山 ライ⁹⁾、仲鉢 英夫¹⁾
沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院 薬剤部¹⁾、湘南鎌倉総合病院 脳神経外科²⁾、
湘南鎌倉総合病院 血液内科³⁾、湘南鎌倉総合病院 心臓血管外科⁴⁾、
湘南鎌倉総合病院 人工関節センター⁵⁾、湘南鎌倉総合病院 総合内科⁶⁾、
湘南鎌倉総合病院 腎免疫血管内科⁷⁾、湘南鎌倉総合病院 形成外科・美容外科⁸⁾、
湘南鎌倉総合病院 外科⁹⁾

012-3 薬剤師によるオピオイド使用患者にCYP阻害・誘導薬剤が追加された際の注意喚起システムの構築

○高野 陽平^{1,2)}、田口 宏一¹⁾、横山 朝子^{1,2)}、平井 まな²⁾、小嶋 希望²⁾、
及川 佑介¹⁾、森井 佳奈¹⁾、野々宮ゆかり¹⁾、岡元己富美¹⁾、森 佳子¹⁾、上野 英文²⁾
砂川市立病院 緩和ケアチーム¹⁾、砂川市立病院 薬剤部²⁾

口頭発表13 がん治療および支持療法 3題

10月4日(土) 15:45-16:45 第8会場(身体障害者福祉センター 2F 大会議室)

座長：中村 益美(埼玉県立がんセンター)
小暮 友毅(四国がんセンター 薬剤科)

013-1 腫瘍血管新生に対するオピオイドの役割： κ オピオイド受容体作動薬の腫瘍血管新生阻害薬としての可能性

○濱田 祐輔¹⁾、山水 康平²⁾、成田 道子¹⁾、小嶋富貴子^{1,3)}、葛巻 直子¹⁾、小林 哲也³⁾、
成田 年^{1,4)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、
NIH, NIA, Developmental Genomics and Aging Section, Laboratory of Genetics, MD, USA²⁾、
公益財団法人日本小動物医療センター³⁾、先端生命科学研究センター (L-StaR)⁴⁾

013-2 食道癌患者におけるがん化学療法に伴う悪心・嘔吐と血中消化管ペプチド濃度との関連性の検討

○佐藤 雄己¹⁾、小野 優子¹⁾、鈴木 陽介¹⁾、柴田 智隆²⁾、野口 剛³⁾、伊東 弘樹¹⁾
大分大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、大分大学医学部附属病院高度救命救急センター²⁾、
大分大学医学部地域医療学センター³⁾

013-3 肝細胞がん患者における体液貯留に対するトルバブタンの効果予測因子の検討

○伊藤 武志、川口 明範、藤原季美子、古川 諭、木寺 康裕、柳江 正嗣、野村 守弘、
山添 譲

近畿大学医学部附属病院 薬剤部

口頭発表14 オピオイド以外の薬物療法および有害事象 3題

10月4日(土) 16:00-16:45 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)

片山 志郎(日本医科大学付属病院 薬剤部)

014-1 センノシドAの新規瀉下作用メカニズムの解明とその適正使用に関する研究

○五十嵐信智¹⁾、今 理紗子¹⁾、名古屋智香¹⁾、高山 朋子²⁾、町田 昌明³⁾、落合 和¹⁾、
杉田 和幸²⁾、杉山 清¹⁾

星薬科大学 薬動学教室¹⁾、星薬科大学 薬品製造化学教室²⁾、星薬科大学 実務教育研究部門³⁾

014-2 神経障害性疼痛に対するプレガバリン投与における有害事象発症の要因解析

○神林 祐子^{1,2)}、大西 佳子²⁾、細川 豊史²⁾

京都府立医科大学 附属病院 薬剤部¹⁾、京都府立医科大学 附属病院 疼痛緩和医療部²⁾

014-3 当院における終末期がん患者の処方方を再考する～服薬の現状と課題～

○畑 加奈子、向井光一郎、櫻間 啓基、坂本 一貴、羽田野桂史、石炭 兼征、西 正浩、
亀丸 明莉、松井 法子、細瀧喜代志、田宮 貞宏

公立玉名中央病院

口頭発表15 オピオイドに関する症例報告 4題

10月5日(日) 9:15-10:15 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 長崎 信浩(福山大学 薬剤部 実務実習支援室)

西迫 多重(益田地域医療センター医師会病院)

015-1 包括的疼痛評価に基づくオピオイドローテーションが奏効した意識障害のある難治性がん性疼痛患者の1例

○代田 礼子¹⁾、吉澤 忍¹⁾、北沢 将人²⁾、山田 武志³⁾、新宮 聖士⁴⁾

飯田市立病院 薬剤科¹⁾、外科²⁾、緩和ケア内科³⁾、乳腺内分泌外科⁴⁾

015-2 フェンタニル貼付剤と他の強オピオイドの併用をおこなった症例の検討

○嶽小原 恵¹⁾、高下 智子¹⁾、杉田 智子²⁾、池永 昌之³⁾

淀川キリスト教病院 薬剤部¹⁾、淀川キリスト教病院 看護部²⁾、

淀川キリスト教病院 ホスピス・こどもホスピス病院³⁾

015-3 メサドンへのスイッチングが有効であった骨破壊を伴う肺尖部肺癌の1例

○小尾 芳郎^{1,2)}、宮崎 百合^{2,3)}、藤井 由貴^{1,2)}、佐藤浩太郎³⁾、嶋津 奈^{2,4)}、

小笠原利枝^{2,5)}、黒田 俊也^{1,2,6)}、鵜浦 康司⁷⁾、河崎 勉⁷⁾

横浜市立みなと赤十字病院 緩和ケア内科¹⁾、横浜市立みなと赤十字病院 緩和ケアチーム²⁾、

横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部³⁾、横浜市立みなと赤十字病院 精神科⁴⁾、

横浜市立みなと赤十字病院 看護部⁵⁾、深澤りつクリニック⁶⁾、

横浜市立みなと赤十字病院 呼吸器内科⁷⁾

015-4 高用量モルヒネ持続静注よりフェンタニル貼付剤へ短期スイッチし退院した1症例

○岡本 知久、徳山ことみ、中川 淳子、佐藤 知枝、藤本 伸一

独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院 がんサポートチーム

口頭発表16 オピオイドおよび他の薬物治療に関する症例報告 4題

10月5日(日) 10:15-11:15 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 矢野 琢也(住友別子病院 薬剤部)
出石 文男(松山大学 薬学部)

O16-1 依存性薬物使用歴のある末期がん患者において、疼痛緩和が難渋した一例報告

○宮尾美佐欣、石倉久美子、松浦 仁志、有田 順子、北田 尚子、松本チサ子、楠本 臣彌、
小槻 典子
社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 四天王寺病院 薬局

O16-2 悪性腫瘍による膀胱・直腸刺激症状にガバペンチンが著効した2症例

○田上 恵太^{1,2)}、的場 元弘³⁾、阿部健太郎⁴⁾、三浦 智史¹⁾、蓮尾 英明¹⁾、松本 禎久¹⁾、
元永 伸也⁴⁾、馬場 啓介³⁾、木下 寛也¹⁾
国立がん研究センター東病院 緩和医療科¹⁾、国立がん研究センター中央病院 緩和医療科²⁾、
青森県立中央病院 緩和医療科³⁾、国立がん研究センター東病院 薬剤部⁴⁾

O16-3 腎がんにおけるスニチニブの味覚異常と血清亜鉛値との相関がみられなかった症例

○藤堂 真紀¹⁾、梶川 圭史²⁾、金尾 健人²⁾、全並 賢二²⁾、住友 誠²⁾、松浦 克彦¹⁾
愛知医科大学病院 薬剤部¹⁾、愛知医科大学病院 泌尿器科²⁾

O16-4 オピオイド疼痛コントロール中に、抗がん剤で麻痺性イレウスが生じた一症例

○浦崎 剛¹⁾、城野 修男¹⁾、中辻 優子²⁾、中野 芳明³⁾、松井 薫²⁾
市立貝塚病院 薬剤部¹⁾、市立貝塚病院 内科²⁾、市立貝塚病院 乳腺外科³⁾

口頭発表17 オピオイドの使用状況調査 5題

10月5日(日) 13:30-14:45 第5会場(愛媛県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 小西 洋子(京都府立医科大学附属病院 薬剤部)
相良 英憲(松山大学 薬学部)

O17-1 メサドン鎮痛用量における鎮痛換算比に関する調査

○橋本 直弥、平島 佳代、立松三千子、水谷 旭良
愛知県がんセンター中央病院 薬剤部

O17-2 がん突出痛に対するフェンタニルバツカル錠の使用経験

○山田千代子、米澤 美和、久保 杏奈、虎瀬 和子、柏原 宏暢
石川県立中央病院 薬剤部

O17-3 臨床におけるフェンタニルバツカル錠の有用性の検討

○塚本 泰彦¹⁾、梶山 徹²⁾、倉橋 基尚¹⁾、眞継 賢一¹⁾、上田 浩貴¹⁾、黒岩 勇人¹⁾、
市原しのぶ³⁾、垣見 亮⁴⁾、濱口 良彦¹⁾
関西電力病院 薬剤部¹⁾、関西電力病院 緩和医療科²⁾、関西電力病院 看護部³⁾、
関西電力病院 心療内科⁴⁾

O17-4 携帯型精密輸液ポンプ式PCAの在宅療養における有用性

○西迫 多重¹⁾、宅野真由美³⁾、齋藤貴美子³⁾、藤川ひづる⁴⁾、服部 晋司²⁾
益田地域医療センター医師会病院 薬剤科¹⁾、益田地域医療センター医師会病院 外科²⁾、
益田地域医療センター医師会病院 看護部³⁾、益田地域医療センター医師会病院 臨床工学科⁴⁾

O17-5 当院におけるフェンタニルバツカル錠の導入について

○今枝 洋平¹⁾、秋田 浩子¹⁾、三品 慶高¹⁾、藤本 正夫²⁾、大谷 聡³⁾
岐阜厚生連 東濃厚生病院 薬局¹⁾、岐阜厚生連 東濃厚生病院 内科²⁾、
岐阜厚生連 東濃厚生病院 外科³⁾

口頭発表18 在宅緩和ケア・退院支援 5題

10月5日(日) 13:30-14:45 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長: 伊東 俊雅(東京女子医科大学病院 薬剤部 臨床薬剤管理室)
加藤 久勝(玉造眞鍋薬局)

018-1 予約外受診の頻度減少に寄与できた外来初回オピオイド導入患者への服薬指導体制

○葛谷 真理、高原 悠子、小出 敬子、高木 祐介、野尻 蘭、今井視保子、木全 司、
中村 正史、青山 智彦
名古屋第二赤十字病院 薬剤部

018-2 薬剤師が顔の見える連携に参加する意義

○石元 秀和¹⁾、高木 恭子¹⁾、上松 豊¹⁾、林 美智子¹⁾、藤田 幸子¹⁾、石原 泰子²⁾、
藤井 基弘³⁾、菊田 基¹⁾
トマト薬局¹⁾、倉敷中央病院 薬剤部²⁾、藤井クリニック³⁾

018-3 当院における在宅用PCAポンプの使用状況と問題点

○稲見 正幸^{1,2)}、伊澤 紀子²⁾、小村 賢祥²⁾、羽石 洋子²⁾、田島 敦志³⁾
済生会宇都宮病院 薬剤部¹⁾、済生会宇都宮病院 緩和ケアチーム²⁾、
済生会宇都宮病院 呼吸器外科³⁾

018-4 医療用麻薬(経口薬・貼付薬)の自己管理導入の有用性と課題

○加藤真由美^{1,2)}、康 貴純^{1,2)}、上田 展代¹⁾、中村真佐子^{2,3)}、山本 直美^{2,3)}、小田 道夫^{2,4)}、
佐藤 仁彦⁵⁾、山中 英治⁴⁾
社会医療法人 若弘会 若草第一病院 薬剤部 薬剤課¹⁾、
社会医療法人 若弘会 若草第一病院 緩和ケアチーム²⁾、
社会医療法人 若弘会 若草第一病院 看護部³⁾、
社会医療法人 若弘会 若草第一病院 外科⁴⁾、
社会医療法人 若弘会 若草第一病院 泌尿器科⁵⁾

018-5 医療用麻薬投与におけるPCAディスプレイ携帯型持続注入器の有用性の検討

○伊東 俊雅^{1,4)}、島田 茉季¹⁾、谷口 雅彦¹⁾、川辺桂太郎^{1,4)}、松本 幸恵^{1,4)}、
高橋麻利子^{1,4)}、大野 朋子^{1,4)}、北 麻希子²⁾、中島マリア美智子²⁾、中島 豪²⁾、
高山 敬子^{3,4)}、竹下 信啓²⁾、川上 和之²⁾、兼村 俊範^{2,4)}、林 和彦²⁾、
高橋 賢成¹⁾、木村 利美¹⁾
東京女子医科大学病院薬剤部¹⁾、東京女子医科大学病院化学療法緩和ケア科²⁾、
東京女子医科大学病院消化器内科³⁾、東京女子医科大学病院がんセンター緩和ケア室⁴⁾

口頭発表19 その他調査報告 4題

10月5日(日) 14:45-15:45 第5会場(愛媛県県民文化会館 3F 第6会議室)

座長: 北村 佳久(岡山大学病院 薬剤部)
濱田 政司(独立行政法人 地域医療機能推進機構熊本総合病院)

019-1 肝硬変における体液貯留に対する Tolvaptan の使用経験

○福島 智子¹⁾、瀬名波暢子¹⁾、森田 直¹⁾、小松 絵美¹⁾、谷 大輔¹⁾、辻井 佳代¹⁾、
小平いく子¹⁾、米門 秀行²⁾、喜多 竜一²⁾、大崎 往夫²⁾、小林 政彦¹⁾
大阪赤十字病院 薬剤部¹⁾、同 消化器内科²⁾

019-2 若年の終末期がん患者への関わりー多様な苦痛症状を表出した脂肪肉腫の一例ー

○笠原 庸子^{1,2)}、小原 弘之^{2,3)}、新田 朋子⁴⁾、原垣内里奈^{2,5)}、松本真由子⁵⁾、前田 昌徳¹⁾
県立広島病院 薬剤科¹⁾、県立広島病院 緩和ケアチーム²⁾、県立広島病院 緩和ケア科³⁾、
県立広島病院 臨床腫瘍科⁴⁾、県立広島病院 看護部⁵⁾

019-3 がん化学療法の不安感の有無と実施前後での比較について

○丸山 昌広^{1,4)}、田中 弘美^{2,4)}、夏目 和子^{2,4)}、玉腰 淳子^{3,4)}
新城市民病院 薬局¹⁾、新城市民病院 看護部²⁾、新城市民病院 総合診療科³⁾、
新城市民病院 緩和ケアチーム⁴⁾

019-4 プレガバリンによる副作用の要因解析(第2報)

○橋本 麻央、飛鷹 範明、田中 守、田中 亮裕、荒木 博陽
愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

口頭発表20 院内連携・医療安全・教育 4題

10月5日(日) 14:45-15:45 第6会場(愛媛県県民文化会館 3F 第8会議室)

座長: 八本久仁子((独)国立病院機構柳井医療センター)
林 武文((独)国立病院機構高知病院)

020-1 緩和ケアチーム薬剤師と病棟薬剤師の連携についての検討~オピオイド使用患者の情報チェック表を作成して~

○大木 健史¹⁾、朝生 貴史¹⁾、大嵩 隆郎¹⁾、天野 明香¹⁾、尾形 良子²⁾、田中 悦子¹⁾、
朝生 忍³⁾
国保直営総合病院 君津中央病院 医療技術局 薬剤科¹⁾、国保直営総合病院 君津中央病院
看護局²⁾、国保直営総合病院 君津中央病院 医療技術局 次長³⁾

020-2 当院における薬剤科内緩和ケアユニットシステムへの取り組みとその役割について

○矢嶋 美樹、大貫 敏明、安田 麻美、浅井 浩子、高橋 優香、岩佐 典子、杉浦 健一、
藤岡 敬子、畦元 智子、中村 友美、松木 祥彦
医療法人社団協友会 船橋総合病院 薬剤科

020-3 東大宮総合病院における麻薬トラブルの現状調査

○織本 桂、吉田 友和、野間 将太、上原 将史、矢吹 直寛
上尾中央医科グループ 東大宮総合病院 薬剤科

020-4 全国薬科大学・薬学部の緩和医療における卒前教育の実態調査

○岡本 禎晃¹⁾、平井みどり²⁾、細谷 治³⁾、山田 勝士⁴⁾、鈴木 勉⁵⁾、加賀谷 肇⁶⁾
市立芦屋病院¹⁾、神戸大学医学部附属病院²⁾、城西大学³⁾、長崎国際大学⁴⁾、星薬科大学⁵⁾、
明治薬科大学⁶⁾

ポスター発表

A 10月4日(土) 11:20-12:20 ポスター会場(愛媛県民文化会館)
B 10月4日(土) 17:00-18:00 ポスター会場(愛媛県民文化会館)
C 10月5日(日) 11:10-12:10 ポスター会場(愛媛県民文化会館)

P-001_A 癌骨転移性疼痛モデルラットを用いた治療標的分子の探索

○神崎 浩孝¹⁾、友塚 直人²⁾、賀来 隆二²⁾、小幡 典彦³⁾、松岡 義和²⁾、溝渕 知司³⁾、
森田 潔²⁾、槇田 崇志¹⁾、正岡 康幸¹⁾、北村 佳久¹⁾、千堂 年昭¹⁾
岡山大学病院 薬剤部¹⁾、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔蘇生学講座²⁾、神戸大学大
学院医学系研究科 麻酔科学分野³⁾

P-002_B フェンタニル口腔粘膜吸収製剤の使用実態調査

○田中 育子¹⁾、岡本 禎晃¹⁾、明石 延子¹⁾、竹井 清純²⁾、中嶋真一郎²⁾、宮武佳菜枝³⁾、
進藤 喜与²⁾
市立芦屋病院 薬剤科¹⁾、市立芦屋病院 緩和ケア内科²⁾、市立芦屋病院 看護科³⁾

P-003_C 外科・消化器科病棟における痛みの評価の統一化に向けた取り組み

○鯉淵 寛之、南雲 史雄、青木 均文、関根 寿一
医療法人社団 緑成会 横浜総合病院

P-004_A オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対するアセトアミノフェンの影響

○山下 登、飛鷹 範明、上野 昌紀、田中 守、田中 亮裕、荒木 博陽
愛媛大学 医学部附属病院 薬剤部

P-005_B 急性白血病患者における疼痛管理の実態と問題点

○澤井 麻記、土手 賢史、野崎 歩、岩根 裕紀、小林 由佳
社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

P-006_C 当院におけるオキシコドン注射液使用患者の実態調査

○足立 充司¹⁾、相澤 聡子^{1,2)}、新家 恵子¹⁾、栗谷 良孝¹⁾、二宮由紀恵^{2,3)}、今村 博司^{2,4)}
市立豊中病院 薬剤部¹⁾、市立豊中病院 緩和ケアチーム²⁾、市立豊中病院 看護部³⁾、
市立豊中病院 外科⁴⁾

P-007_A フェンタニル貼付剤とオキシコドン注の併用が有効だった1例

○大井 直子¹⁾、阿部 和人¹⁾、和泉 典子²⁾、鈴木 聡²⁾
鶴岡市立荘内病院 薬局¹⁾、鶴岡市立荘内病院 医局²⁾

P-008_B “弱オピオイド”と“部分作動薬”を混同しないための科学的根拠：フェンタニルとトラマドールの併用とその有用性

○桑田 大嗣¹⁾、濱田 祐輔¹⁾、小嶋 千潤¹⁾、上園 保仁²⁾、山口 重樹³⁾、葛巻 直子¹⁾、
池上 大悟¹⁾、成田 年^{1,4)}
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理分野²⁾、
独協医科大学 医学部 麻酔科講座³⁾、先端生命科学研究センター(L-StaR)⁴⁾

P-009_C フェンタニルテープへオピオイドローテーションする際の血清アルブミン値による換算量について

○鈴木 大吾、鈴木 敦詞、前田 剛司、坂田 洋
春日井市民病院 薬剤部

- P-010_A フェンタニルレスキュー薬（イーフェンバッカル[®]錠）の適正使用にむけて～スクリーニングシートの作成と評価～
○松波 寿雄、枝廣 茂樹、大川 浩子、岡田 睦子
金沢赤十字病院 薬剤部
- P-011_B イーフェンバッカル錠導入への取り組みから見えてきた今後の課題
○西別府弘子^{1,4)}、五十嵐 俊¹⁾、小迫富美恵^{2,4)}、蓼沼 朝子^{2,4)}、福嶋 好重^{2,4)}、横山 太郎^{3,4)}、
国兼 浩嗣^{3,4)}、高尾 良洋¹⁾
横浜市立市民病院 薬剤部¹⁾、横浜市立市民病院 看護部²⁾、
横浜市立市民病院 緩和ケア内科³⁾、横浜市立市民病院 緩和ケアチーム⁴⁾
- P-012_C 年齢とオピオイド投与量の相関に関する検討
○高橋 武士¹⁾、中島 誠¹⁾、寺師 守彦¹⁾、田中 千恵²⁾、岩本 範博²⁾
鹿児島市医師会病院 薬剤部¹⁾、鹿児島市医師会病院 緩和ケア科²⁾
- P-013_A 高用量モルヒネ持続静注により疼痛管理を行った大腸癌多発肝転移の一例
○須山緋沙子、須山緋沙子、高橋 基久、久保美由紀、森本 和雄
医療法人 啓信会 京都きづ川病院 薬剤科
- P-014_B ترامadol塩酸塩・アセトアミノフェン配合錠の使用状況調査
○澁谷恵美子、五十嵐啓介、佐久間路子、岩田 芳枝、石田 詞子、牛谷 友美、橋本 昇、
高見 直樹、小野 達也、西田 英之
IHI播磨病院 薬剤科
- P-015_C 高用量フェンタニル貼付剤使用患者に対し、オキシドロン注射薬へのオピオイドローテーション、鎮痛補助薬の追加により疼痛緩和がはかれた1例
○鈴木 景就^{1,6)}、石渡 明子^{2,6)}、柴田麻里子^{1,6)}、山中 佑香^{5,6)}、明石 浩史^{3,6)}、
茶木 良^{4,6)}、水越 常德³⁾、木村 雅美^{4,6)}
済生会小樽病院 医療技術部 薬剤室¹⁾、済生会小樽病院 看護部²⁾、済生会小樽病院 内科³⁾、
済生会小樽病院 外科⁴⁾、済生会小樽病院 医療技術部 リハビリテーション室⁵⁾、
済生会小樽病院 緩和ケアチーム⁶⁾
- P-016_A 神経障害性疼痛に対しメサドンにより良好な疼痛コントロールを得た2症例
○平島 佳代¹⁾、井口 幸子¹⁾、橋本 直弥¹⁾、立松三千子¹⁾、松崎 雅英¹⁾、水谷 旭良¹⁾、
新田 都子²⁾、向井未年子²⁾、下山 理史³⁾、小森 康永³⁾
愛知県がんセンター中央病院 薬剤部¹⁾、愛知県がんセンター中央病院 看護部²⁾、
愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア部³⁾
- P-017_B 高用量フェンタニル投与患者へメサドンを導入した1症例
○金井 貴充¹⁾、牧内 美和²⁾、藤森 一也³⁾、鎌谷 道生¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 信州上田医療センター 薬剤科¹⁾、
独立行政法人 国立病院機構 信州上田医療センター 看護部²⁾、
独立行政法人 国立病院機構 信州上田医療センター 消化器内科³⁾
- P-018_C 当院でのオピオイド導入時におけるオピオイドと支持療法剤の使用実態調査
○野妻 俊也¹⁾、前田 弘志¹⁾、塩満多華子²⁾、高崎 紘佑¹⁾、山口 辰哉¹⁾
鹿児島市立病院 薬剤科¹⁾、同 看護科²⁾
- P-019_A フェンタニル口腔粘膜吸収剤の舌下錠（ROO 舌下錠）導入における看護師スタッフへの教育と認知度調査
○松尾由加里¹⁾、富安 志郎²⁾、栗原 達則¹⁾
医療法人光仁会 西田病院 薬剤科¹⁾、医療法人光仁会 西田病院 麻酔科²⁾

- P-020_B 高用量のモルヒネ塩酸塩持続注射からフェンタニルクエン酸塩貼付剤へ段階的にオピオイドローテーションを行った 1 症例
○小池 麻由、平岩 歳久、仙田 典保
藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院 薬剤部
- P-021_C 当院におけるフェンタニルクエン酸塩口腔粘膜吸収製剤の使用状況調査と緩和ケアチームの今後の取り組み
○井上奈七恵^{1,3)}、久野 美雪³⁾、平山 剛^{2,3)}、高橋 利幸¹⁾
東京医科大学 茨城医療センター 薬剤部¹⁾、東京医科大学 茨城医療センター 緩和医療科²⁾、
東京医科大学 茨城医療センター 緩和ケアチーム³⁾
- P-022_A フェンタニルレスキュー薬の院内導入について
○向 一美¹⁾、杉村 奈美¹⁾、地野 幹子¹⁾、荒能 義彦²⁾
KKR 北陸病院 薬剤科¹⁾、KKR 北陸病院 外科²⁾
- P-023_B 当院における癌患者のオピオイド使用状況について検討する
○高橋 理智、成瀬 博昭、須永 桂子、山田 美絵、星見 晃江
TMG 田園調布中央病院 緩和ケアチーム
- P-024_C 口腔粘膜吸収性疼痛治療剤（フェンタニル製剤）イーフェンバツカル錠使用時の患者評価に関するアンケート調査
○泉 克明、畠中 仁大、岩崎 弘晃、森 麻希、川口ルミ子
王子総合病院 医療技術部 薬剤科
- P-025_A 市立豊中病院におけるオピオイド使用患者の経口摂取状況と薬剤選択の実態調査
○相澤 聡子^{1,2)}、足立 充司¹⁾、新家 恵子¹⁾、栗谷 良孝¹⁾、二宮由紀恵²⁾、今村 博司²⁾
市立豊中病院 薬剤部¹⁾、市立豊中病院 緩和ケアセンター²⁾
- P-026_B 血液透析施行時に一過性オピオイド過量症状を呈した維持透析患者の一例
○阿部 美佐緒^{1,4)}、菅原 浩^{2,4)}、村上 祥子^{3,4)}
地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院 薬剤部¹⁾、外科²⁾、看護部³⁾、
がん診療サポートチーム⁴⁾
- P-027_C オキシコドンからメサドンへ既知の換算比で置換できた 1 例と、メサドン使用による医療連携上の課題について
○日高あずみ¹⁾、黛 芽衣子²⁾、山内由美子³⁾、渡邊真知子¹⁾、有賀 悦子²⁾
帝京大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、帝京大学医学部附属病院 緩和ケア内科²⁾
- P-028_A 当院におけるフェンタニルクエン酸塩舌下錠採用後に使用実績の得られた 2 症例
○土井 星来、中村 聡、増尾 昌則
医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院 薬局
- P-029_B オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠からメサドン塩酸塩錠への切替えにより良好な疼痛コントロールが得られた 1 症例
○尾関あゆみ^{1,2)}、南 和徳^{2,3)}、内田 新^{2,4)}、井上 啓爾^{2,5)}、吉岡 大樹¹⁾、吉村 敏朗¹⁾
長崎みなとメディカルセンター市民病院 薬剤部¹⁾、
長崎みなとメディカルセンター市民病院 緩和ケアチーム²⁾、
長崎みなとメディカルセンター市民病院 放射線科³⁾、
長崎みなとメディカルセンター市民病院 看護部⁴⁾、
長崎みなとメディカルセンター市民病院 緩和ケア外科⁵⁾
- P-030_C 当院におけるフェンタニルバツカル錠の使用実績調査
○玉田 智子、福田 朋子
姫路赤十字病院 薬剤部

P-031_A 造血幹細胞移植後患者のオピオイド退薬症候出現の要因

○上垣 美江¹⁾、宮澤 真帆²⁾、大釜 真美²⁾
 がん・感染症センター都立駒込病院 看護部¹⁾、がん・感染症センター都立駒込病院 薬剤科²⁾

P-032_B 当院の短時間作用型オピオイドの使用状況とフェンタニル速放性製剤の導入について

○松本 千明¹⁾、小湊 彩佳¹⁾、飯田 麻衣¹⁾、伊藤 剛貴¹⁾、松永 和子¹⁾、井坂 茂夫²⁾
 J A 埼玉県厚生連久喜総合病院 薬剤部¹⁾、J A 埼玉県厚生連久喜総合病院 泌尿器科²⁾

P-033_C 入院患者におけるオピオイドレスキューの自己管理実施率向上を目指して

○土師 知子^{1,2)}、今西 美香^{1,2)}、土田真樹子^{2,3)}、木内智香子¹⁾
 東京都立墨東病院 薬剤科¹⁾、東京都立墨東病院 緩和ケアチーム²⁾、
 東京都立墨東病院 看護部³⁾

P-034_A 当院緩和ケア病棟におけるオキシコドン塩酸塩注の使用状況

○井上 美紗、櫻葉 利人
 市立岸和田市民病院 薬剤部

P-035_B フェンタニル注射液から貼付剤へローテーションする際に投与量に影響する患者の調査

○元永 伸也、市田 泰彦、高橋 邦雄、齊藤真一郎
 国立がん研究センター東病院

P-036_C オピオイドローテーションにより 1 日 1 回型フェンタニル貼付剤に変更した症例の QOL に関する検討

○草信 晴美、三垣 知子、監物 英男、今村 明正
 川崎医科大学附属川崎病院 薬剤部

P-037_A オキシコドン注へのオピオイドローテーションが有効であった 2 例

○鈴木 藍¹⁾、中村 博子¹⁾、長谷 綾¹⁾、輪湖 理絵¹⁾、加藤あゆみ¹⁾、池田 征史²⁾、
 鈴木 規仁³⁾、片山 志郎¹⁾
 日本医科大学付属病院 薬剤部¹⁾、日本医科大学付属病院 看護部²⁾、
 日本医科大学付属病院 緩和ケア科³⁾

P-038_B 緩和ケアチームが介入した化学療法併用時のトラマール使用経験

○中村 博子^{1,2)}、鈴木 藍^{1,2)}、長谷 綾^{1,2)}、輪湖 理絵^{1,2)}、加藤あゆみ^{1,2)}、
 池田 征史^{2,3)}、鈴木 規仁^{2,4)}、片山 志郎^{1,2)}
 日本医科大学付属病院 薬剤部¹⁾、日本医科大学付属病院 緩和ケアチーム²⁾、
 日本医科大学付属病院 看護部³⁾、日本医科大学付属病院 麻酔科⁴⁾

P-039_C 愛知県がんセンター中央病院におけるフェンタニル貼付剤の使用状況 —オピオイドローテーションの実態調査—

○藤井 美佳^{1,2)}、栗木 玲子^{2,5)}、秦 毅司^{2,4)}、立松三千子^{2,3)}、金田 典雄²⁾
 みか調剤薬局¹⁾、名城大学 大学院 薬学研究科²⁾、愛知県がんセンター中央病院 薬剤部³⁾、
 国家公務員共済組合連合会 東海病院 薬剤科⁴⁾、医療法人社団耀和会 濃成病院⁵⁾

P-040_A 当院におけるイーフェンバカル錠使用状況からみえる傾向

○三松 史野、荒田美帆子、吉村 光弘、村岡 淳二
 地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院 薬剤科

P-041_B 当院における WHO 疼痛ラダー第 2 段階のオピオイド鎮痛薬～トラマドール製剤の処方動向～

○武藤 健史¹⁾、半沢 秀樹¹⁾、山寺 文博¹⁾、小原 竜¹⁾、田中 敏¹⁾、佐藤 益男¹⁾、
 工藤千枝子²⁾、二井谷友公²⁾、杉山 克郎²⁾
 みやぎ県南中核病院 薬剤部¹⁾、みやぎ県南中核病院 腫瘍内科²⁾

P-042_C 疼痛を有する死期がせまったがん患者に対するレスキュー剤投与に関する使用実態調査

○前田 剛司、鈴木 大吾、鈴木 敦詞、坂田 洋
春日井市民病院 薬剤部

P-043_A 当院における癌性・慢性疼痛に対するトラマール®Cap、トラムセット®配合錠の使用状況

○佐倉小百合^{1,3)}、福井 里佳¹⁾、平郡 薫^{1,3)}、佐野 隆大^{1,3)}、田中 雅子^{1,3)}、横田 聖子¹⁾、
西尾 孝¹⁾、吉住智奈美^{2,3)}、福井 英二¹⁾
兵庫県立尼崎病院 薬剤部¹⁾、兵庫県立尼崎病院 看護部²⁾、
兵庫県立尼崎病院 緩和ケアチーム³⁾

P-044_B デュロテップ®MT パッチ初回導入における有効性・安全性の検討および介入

○福井 里佳、夫婦岩啓明、平郡 薫、佐倉小百合、田中 雅子、横田 聖子、西尾 孝、
福井 英二
兵庫県立尼崎病院 薬剤部

P-045_C 通過障害を有する消化器がん患者に対しフェンタニルパッチをオピオイド導入に用いた症例の検討

○三好 孝法^{1,2)}、山内 浩子³⁾、三角 紳博¹⁾、甲斐 祭生²⁾、吉田絵衣子²⁾、西野 隆¹⁾、
蓮尾 泰之²⁾
国立病院機構 九州医療センター 薬剤科¹⁾、
国立病院機構 九州医療センター 緩和ケアチーム²⁾、
国立病院機構 嬉野医療センター 薬剤科³⁾

P-046_A 当院のオキシコドン注射剤によるタイトレーションの有用性・安全性の調査

○中嶋 明香、元永 伸也、高橋 邦雄、市田 泰彦、斉藤真一郎
国立がん研究センター東病院 薬剤部

P-047_B 被覆材を利用したフェントステープの投与量コントロール

○塩野 朋香¹⁾、寺岡 麗子¹⁾、湯谷 玲子¹⁾、沼田千賀子²⁾、松田ゆかり³⁾、岡本 禎晃⁴⁾、
平野 剛⁵⁾、富田 猛⁵⁾、平井みどり⁵⁾、北河 修治¹⁾
神戸薬科大学 製剤学研究室¹⁾、神戸薬科大学 薬学臨床教育センター²⁾、
特定医療法人誠仁会 協和病院 薬剤科³⁾、市立芦屋病院 薬剤科⁴⁾、
神戸大学医学部附属病院 薬剤部⁵⁾

P-048_C 当院におけるイーフェンバツカル錠の使用実態調査

○原田 利江^{1,2)}、毛利 道宏^{2,3)}、加藤 博美^{2,4)}、真上美千子^{2,5)}、田中 和子¹⁾、寺尾 彩^{1,2)}
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 薬剤科¹⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 緩和ケアチーム²⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 緩和ケア内科³⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 麻酔科⁴⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 看護部⁵⁾

P-049_A 医薬品副作用データベースに基づくオピオイドの副作用発現における性差の解析

○永井 純子^{1,2)}、植沢 芳広²⁾、曾我部直美¹⁾、加賀谷 肇²⁾
埼玉県済生会栗橋病院 薬剤科¹⁾、明治薬科大学 臨床薬理学教室²⁾

P-050_B フェンタニル速効性製剤の剤形に関する医療従事者の意識調査

○山田 真裕^{1,2)}、植木 哲也¹⁾、栗田 睦美²⁾、大場 秀夫²⁾、光安 博志²⁾、竹内 彰一²⁾、
江淵 寿美²⁾、二階堂綾子²⁾、橋口 靖¹⁾、眞鍋 治彦²⁾
北九州市立医療センター 薬剤科¹⁾、北九州市立医療センター がん治療支援チーム²⁾

P-051_C 当院の ROO 使用状況の調査

○坪内 敦志¹⁾、宇野 慶子¹⁾、今井 孝¹⁾、松崎 高明¹⁾、嘉本 道子¹⁾、安部 睦美²⁾
松江市立病院 薬剤科¹⁾、松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科²⁾

P-052_A ترامadol塩酸塩が骨転移痛に著効した一症例

○功刀さおり^{1,2)}、高屋敷奈々^{1,2)}、後藤 敏也^{1,2)}、正木 銀三¹⁾、中澤 秀雄²⁾
磐田市立総合病院 薬剤部¹⁾、磐田市立総合病院 緩和ケアチーム²⁾

P-053_B メサドン塩酸塩錠の適正使用状況調査

○大谷 祐子、塚本早百合、安達 嘉織、見上 千昭、吉田 直恵、奥川 斉
兵庫県立がんセンター 薬剤部

P-054_C 当院におけるフェンタニル速放性製剤の使用状況と有効性の評価

○河野 亜依^{1,2)}、田中 信彦^{2,3)}、船橋 英樹^{2,4)}、福留 麻希^{2,5)}、岩切 智美¹⁾、奥村 学¹⁾、
有森 和彦¹⁾
宮崎大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、宮崎大学医学部附属病院 緩和ケアチーム²⁾、
宮崎大学医学部附属病院 麻酔科³⁾、宮崎大学医学部附属病院 精神科⁴⁾、
宮崎大学医学部附属病院 看護部⁵⁾

P-055_A フェンタニルパッチにおけるオピオイド導入の有用性の検討

○内海 誠司、姜 元美、新伊 義之、樋島 学
医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 薬剤科

P-056_B 刈谷豊田総合病院におけるフェンタニルバツカル錠使用実態調査

○滝本 典夫^{1,2)}、吉田 憲生²⁾、梶野 友世²⁾、牧野 雅子²⁾、菅原さやか¹⁾、菅原 志穂¹⁾、
榊原 隆志¹⁾、森 健司¹⁾、足立 守¹⁾
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 薬剤科¹⁾、緩和ケアチーム²⁾

P-057_C 24 時間持効性フェンタニル貼付剤の貼り替え時間をずらすことで疼痛コントロールが改善した 1 例

○水上 恵子^{1,2)}、野田 理絵^{1,2)}、小林 加奈^{1,2)}、三木 恵美³⁾、宮本 彩⁵⁾、多田 幸雄⁶⁾、
寺嶋 吉保^{2,4)}、江島 久隆¹⁾
徳島県立中央病院 薬剤局¹⁾、徳島県立中央病院 緩和ケアチーム²⁾、
徳島県立中央病院 看護局³⁾、徳島県立中央病院 医療局⁴⁾、徳島保健所⁵⁾、徳島大学病院⁶⁾

P-058_A オピオイド投与患者におけるレスキュー・ドーズの使用状況調査
～フェンタニルクエン酸塩口腔粘膜吸収剤の適正使用のために～

○和田 依子、樋口美奈子、佐々木好美、岩坪沙奈恵、中野 行孝
公立学校共済組合 九州中央病院 医療技術部 薬剤科

P-059_B 当院におけるがん患者に対する ترامadol塩酸塩カプセルの使用実績調査

○原 圭子、山口 伸二、田畑 貴康、岸本 千絵、中村 徹志
市立三次中央病院 薬剤科

P-060_C フェンタニルクエン酸塩バツカル錠・舌下錠導入後の突出痛に対するレスキュー薬の変化

○榎南 祥太、牧沢 志保、安倍 知里、高橋 宏幸、百海 有二
北摂総合病院 薬剤科

- P-061_A イーフェンバツカルによるがん性突出痛管理が死亡退院まで有効であった一症例
 ○金澤 邦史¹⁾、石樽 博之¹⁾、戸田 祥恵¹⁾、平塚 理恵¹⁾、下田 敦子¹⁾、佐々木 恵²⁾、
 遠藤 光史³⁾、吉澤 明孝³⁾
 医療法人社団 愛語会 要町病院 薬剤部¹⁾、看護部²⁾、緩和医療科³⁾
- P-062_B 当院におけるトラマドール塩酸塩カプセルからオキシコドン徐放錠への切り替えにおける換算比の調査と適切性の検討
 ○久戸瀬なおみ、加戸 愛子、洲脇 純三、川上 恭弘
 岡山済生会総合病院 薬剤科
- P-063_C 帯状疱疹後神経痛を伴った神経障害性疼痛に対してフェンタニル即効性製剤が有効であった症例
 ○内山 弘子、木南 志朗、石本 昌裕
 独立行政法人 労働者健康福祉機構 新潟労災病院
- P-064_A 当院におけるフェンタニル速放錠の使用状況について
 ○久保田厚子¹⁾、戸田恵美子²⁾、松永 佳恵³⁾、西村 拓⁴⁾、末廣 勉⁵⁾
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 下関医療センター 薬剤科¹⁾、
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 下関医療センター 看護部²⁾、
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 下関医療センター 栄養治療部³⁾、
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 下関医療センター 緩和ケア内科⁴⁾、
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 下関医療センター 薬剤科⁵⁾
- P-065_B 慢性疼痛患者におけるブプレノルフィン貼付剤の適正使用に関する検討
 ○橋田 和佳、尾木 恭子、横田 淳子、市原 和彦、宮村 充彦
 高知大学病院 薬剤部
- P-066_C がん性疼痛に対するオピオイド使用患者へのアセトアミノフェン使用実態と薬剤師の関わり
 ○菊池 謙宏、元木 孝、後藤 勝博、高柳 昌宏、千田 泰健
 総合病院 釧路赤十字病院 薬剤部
- P-067_A 高含量アセトアミノフェン口腔内崩壊錠の開発 -1
 ○荒木 智子、下村 安沙実、柳川 静香、原 裕一、杉野 雅浩、細谷 治、
 太田昌一郎、従二 和彦
 城西大学 薬学部 薬学科
- P-068_B アセトアミノフェン注射液における肝機能への影響
 ○高橋麻利子^{1,2)}、伊東 俊雅^{1,2)}、大野 朋子^{1,2)}、川辺桂太郎^{1,2)}、兼村 俊範²⁾、高橋 賢成¹⁾、
 木村 利美¹⁾
 東京女子医科大学病院 薬剤部¹⁾、東京女子医科大学病院 がんセンター緩和ケア室²⁾
- P-069_C がん患者に対する塩酸デュロキシチンの鎮痛補助効果および安全性の評価
 ○左近 絢子¹⁾、薩摩由香里¹⁾、大音三枝子²⁾、稲角 利彦¹⁾、北田 徳昭¹⁾、梅田 節子²⁾、
 李 美於³⁾、橋田 亨¹⁾
 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部¹⁾、神戸市立医療センター中央市民病院 看護部²⁾、
 神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科³⁾
- P-070_A プレガバリン開始用量の違いにおける副作用発現頻度と継続率
 ○村上 礼隆、岡井由美子、米今 美佳、妹尾 啓司、開 浩一
 広島市立 広島市民病院

P-071_B ترامadol製剤開始時の副作用対策について

○覚前有希子¹⁾、牧原 俊康¹⁾、九鬼 里香¹⁾、野村 香織¹⁾、山田 成樹¹⁾、森 直治²⁾、
東口 高志²⁾
藤田保健衛生大学病院 臨床薬剤科¹⁾、藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座²⁾

P-072_C 当院における Pregabalin 使用状況の把握

○岩永 陽子^{1,2)}、伊地知盛夫²⁾、丸山 寛²⁾、梶原真由美²⁾
公立八女総合病院 薬剤科¹⁾、公立八女総合病院 緩和ケアチーム²⁾

P-073_A 当院におけるアセトアミノフェン静注液の使用実績

○竹村 充代、高田 史、吉野新太郎、森 信介
地方独立行政法人 市立吹田市民病院 薬剤部

P-074_B 5-FU 誘発下痢発症時の CXCL1 発現亢進における NF- κ B の関与：5-FU 誘発下痢におけるクルクミンの効果

○相良 篤信¹⁾、酒井 寛泰²⁾、小口 綾¹⁾、石川 裕子¹⁾、唐澤 武司¹⁾、政所 和孝¹⁾、
甲斐 友規²⁾、佐藤 健²⁾、松本健次郎³⁾、成田 年¹⁾
星薬科大学 薬理学教室¹⁾、星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門²⁾、
京都薬科大学 薬物治療学分野³⁾

P-075_C 吃逆に対する柿蒂湯の効果～柿蒂抽出エキスの抗けいれん作用の検討～

○野澤（石井） 玲子¹⁾、上村 由紀¹⁾、高山 美恭¹⁾、根本 愛子¹⁾、帆秋 有花¹⁾、
福田枝里子²⁾、馬場 正樹²⁾、岡田 嘉仁²⁾、加賀谷 肇¹⁾
明治薬科大学 臨床薬剤学教室¹⁾、明治薬科大学 天然薬物学教室²⁾

P-076_A Methadone 誘発感覚効果及び便秘の特徴

○内田 匡志¹⁾、森 友久¹⁾、鵜澤 直生¹⁾、王 恵理佳¹⁾、土井 星来^{1,2)}、芝崎 真裕¹⁾、
鈴木 勉¹⁾
星薬科大学 薬品毒性学教室¹⁾、湘南藤沢徳洲会病院²⁾

P-077_B 終末期緩和医療における当院でのコルチコステロイド使用成績調査

○三浦 惇史、徳重 恵子、若松亜耶香、北畑 智英、曾我部直美
埼玉県済生会栗橋病院 薬剤科

P-078_C アセトアミノフェンは活性代謝物の AM404 を介して抗けいれん作用を誘発する

○末丸 克矢、末丸 克矢、阿藤 寛明、渡辺 雅彦
就実大学 薬学部 公衆衛生学

P-079_A オキシコドン錠新規導入患者における嘔気・嘔吐の発現に影響するリスク因子の検討

○野澤 孝子、井原 将太、中村 和行、都築 和久、米山 英二、三浦 崇則、勝見 章男
安城更生病院 薬剤部

P-080_B シスプラチン間欠投与法と分割投与法の悪心に対する 3 剤併用制吐療法の有用性

○藤本 英哲、高橋 孝幸、林 麻衣子、下田 将司、大矢 浩之、高橋 宏和、佐野 元彦、
鍵山 智樹、大澤雄一郎、岸野 亨
埼玉医科大学 総合医療センター 薬剤部

P-081_C コデインリン酸塩によると思われる呼吸抑制をきたした 1 例

○稲月 幸範、三星 知、長井 一彦
新潟勤労者医療協会 下越病院 薬剤課

P-082_A 肝硬変患者へのトルバブタンの使用状況

○小倉 志保、小倉 志保、石原 泰子、加納沙代子、赤木 晋介、阿曾沼和代、高柳 和伸
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

P-083_B プロクロルペラジンマレイン酸塩錠の使用状況と副作用の発現事象

○若松亜耶香、徳重 恵子、三浦 惇史、北畑 智英、曾我部直美
済生会栗橋病院

P-084_C 徐放性オキシコドン導入時の嘔気・嘔吐に対する制吐薬予防投与に関する検討

○後藤 悠、本多有希子、鈴木 悠加、橋 亮介、河合 武尊、及川 華代、吉田 直哉、
小原 郁司、小寺 隆二、妻木 良二
JA 北海道厚生連 旭川厚生病院 薬剤部

P-085_A オキシコドン塩酸塩水和物徐放剤導入時における悪心・嘔吐の発現にアセトアミノフェンが与える影響の検討

○西村 明子、安藤 寛子、上島健太郎、早坂 正敏、吉田 善一
日本大学 医学部附属板橋病院 薬剤部

P-086_B ترامadol誘発悪心・嘔吐対策に関する基礎的検討

○小宮 幸子^{1,2)}、森 友久¹⁾、王 恵理佳¹⁾、宇田川雄也¹⁾、芝崎 真裕¹⁾、鈴木 勉¹⁾
星薬科大学 薬品毒性学教室¹⁾、横浜市立大学附属病院 薬剤部²⁾

P-087_C 肺癌・十二指腸狭窄による難治性の嘔吐に苦渋した症例

○植田 生織
(公財) 東京都保健医療公社 東部地域病院 薬剤科

P-088_A 難治性腹水に対するトルバブタンの有用性について

○升田 夏希¹⁾、小笠原康雄¹⁾、長崎 信浩²⁾、藤井 静香¹⁾
広島市立安佐市民病院¹⁾、広島市立安佐市民病院²⁾、福山大学 薬学部³⁾

P-089_B 広島市立安佐市民病院のオピオイド鎮痛薬開始時における制吐剤併用実態の調査

○吉政 直美¹⁾、升田 夏希¹⁾、渡辺 篤¹⁾、長崎 信浩²⁾、藤井 静香¹⁾
広島市立安佐市民病院 薬剤部¹⁾、福山大学 薬学部²⁾

P-090_C ترامadolカプセルとオキシコドン徐放剤初回導入時における副作用発現状況の比較

○菅原 志穂、滝本 典夫、榊原 隆志、菅原さやか、森 健司、足立 守
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 薬剤科

P-091_A 終末期がん患者における輸液量と呼吸器症状との関連性についての検討

○横田 智美¹⁾、伊藤 瑠美¹⁾、玉理 千晴¹⁾、横山 峻太¹⁾、高橋 尚倫¹⁾、岡村 和彦¹⁾、
児玉美千世²⁾、亀田 彰³⁾、佐々木雄啓¹⁾
済生会広島病院 薬剤室¹⁾、済生会広島病院 内科²⁾、済生会広島病院 外科³⁾

P-092_B がん終末期における輸液療法の現状調査・解析

○近藤 潤一¹⁾、徳丸 隼平¹⁾、笹瀬 優斗¹⁾、大柄根いづみ^{1,3)}、小島 昌徳¹⁾、斎藤 真理^{2,3)}、
橋本 真也¹⁾
横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部¹⁾、
横浜市立大学附属市民総合医療センター 化学療法・緩和ケア部²⁾、
横浜市立大学附属市民総合医療センター 緩和ケアチーム³⁾

P-093_C 当院の緩和ケア病棟での終末期がん患者の輸液療法の現状

○寺尾 彩^{1,2)}、毛利 通宏^{2,3)}、加藤 博美^{2,4)}、真上美千子^{2,5)}、田中 和子¹⁾、原田 利江^{1,2)}
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 薬剤科¹⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 緩和ケアチーム²⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 緩和ケア内科³⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 麻酔科⁴⁾、
公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 看護科⁵⁾

P-094_A 食道癌に対するF P療法施行患者の栄養実態について

○森 智美、松浦 暢子、小西 千尋、友金 優花、里岡 達哉、青山瑛里子、大里 恭章
八尾徳洲会総合病院 薬剤部

P-095_B がん患者の終末期倦怠感に対するステロイド投与指標の検討

○宮部 貴識^{1,2)}、畑 裕基¹⁾、平瀬 友愛^{1,2)}、橘 憲¹⁾、南野 優子¹⁾、
川上 智久¹⁾、村口さつき²⁾、森本 茂文³⁾、山崎 邦夫¹⁾、上島 成也²⁾
国立病院機構 大阪南医療センター 薬剤科¹⁾、
国立病院機構 大阪南医療センター 緩和ケアサポートチーム²⁾、
神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部³⁾

P-096_C オキサリプラチンによる末梢神経障害に対するプレガバリンの予防投与

○吉田 勝好、大谷 崇仁、宅江 孝修、脇浦 勇樹、田原 明子、郷原 学
益田赤十字病院 薬剤部

P-097_A 当院におけるL-OHPの施行状況と化学療法カンファレンスでの取り組みについての検討

○藤間 友梨¹⁾、米本 奈央¹⁾、宮崎 美子¹⁾、有田 淳²⁾
東戸塚記念病院 薬剤部¹⁾、東戸塚記念病院 外科²⁾

P-098_B 抗がん剤による色素沈着に対して、ハイドロキノクリーム[®]の導入により苦痛を緩和した症例

○尾形 美絵、長澤 欣弘、嶋崎 千絵、羽生 智宏、森山亜矢子、田村 和彦、新関みどり、
近藤 和宏
大分県済生会日田病院 薬剤部

P-099_C モーズペーストが著効した症例

○村上とよみ、緩和ケア病棟 スタッフ一同
耳原総合病院 薬剤科

P-100_A デノスマブ(ランマーク[®])による低Ca血症のリスク因子解析

○平井 成和¹⁾、金子 綾乃¹⁾、土井 啓員¹⁾、増田 雅行¹⁾、佐野 君芳¹⁾、神谷 直人²⁾、
鈴木 啓悦²⁾、真坂 亙¹⁾
東邦大学医療センター佐倉病院 薬剤部¹⁾、東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科²⁾

P-101_B 緩和ケア病棟における強オピオイド製剤の薬物相互作用に関する調査

○土井 教雄、土江 晴江、玉木 宏樹、西村 信弘、直良 浩司
島根大学 医学部 附属病院 薬剤部

P-102_C 鶴巻温泉病院におけるMohs軟膏の使用報告

○姜 元美¹⁾、内海 誠司¹⁾、樋島 学¹⁾、小杉 依子²⁾
医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 薬剤科¹⁾、医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 診療部²⁾

P-103_A 緩和ケア病棟における併用注意薬剤に関する調査

○岩田 佳之^{1,2)}、菱木 賢治¹⁾、田中 方士²⁾
総合病院国保旭中央病院 薬剤部¹⁾、総合病院国保旭中央病院 緩和ケア病棟²⁾

P-104_B アゾール系抗真菌薬の変更に伴う薬物相互作用によりフェンタニルパッチの効果が増強した1症例

○星加 寿子¹⁾、矢野 琢也¹⁾、福岡 竜逸¹⁾、松本 大輝¹⁾、上野 智美¹⁾、藤田 高子²⁾、
伊藤かおり²⁾、松原 常起¹⁾
医療法人 住友別子病院 薬剤部¹⁾、医療法人 住友別子病院 がんセンター²⁾

P-105_C 化学療法による口腔粘膜炎のため経口摂取困難となった急性骨髄性白血病患者に対し、集学的治療が奏効した一例

○久保 範子^{1,5)}、鈴木 信也^{1,5)}、槌屋 佳子¹⁾、磯野 永依^{2,5)}、陳 建綱²⁾、早川 直子^{3,5)}、
岩崎 光孝⁴⁾、岡田 知子⁴⁾、安藤 栄輝¹⁾
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 薬局¹⁾、
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 内科²⁾、
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 看護部³⁾、
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 歯科⁴⁾、
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 緩和ケアチーム⁵⁾

P-106_A 当院における経口抗がん剤の服薬指導

○福井 愛子、松本優香子、坂野 実加、能登 啓介、新屋 悠、山岸 三紗、
西浦 早織、松岡 寛
近畿大学医学部奈良病院 薬剤部

P-107_B 改良型Mohs'ペーストに関する研究 ―改良型Mohs'ペーストの臨床使用における違いについて―

○岡田 賢二¹⁾、芳賀吏那子⁵⁾、小川 法子⁵⁾、高橋 知里⁵⁾、磯部 隆史¹⁾、村田実希郎²⁾、
田口 真穂³⁾、比知屋寛之⁴⁾、埴岡 伸光⁴⁾、山本 浩充⁵⁾、重山 昌人¹⁾
横浜薬科大学 臨床薬剤学研究室¹⁾、横浜薬科大学 薬剤学研究室²⁾、
横浜薬科大学 実務実習センター³⁾、横浜薬科大学 公衆衛生学研究室⁴⁾、
愛知学院大学薬学部 製剤学講座⁵⁾

P-108_C PANA含有軟膏が、がん化学療法における口内炎に著効した一例

○簗島弓未子¹⁾、吉田さゆり¹⁾、増淵 幸二¹⁾、西村 栄一¹⁾、近藤 智幸¹⁾、橋本 光生¹⁾、
蟹谷 和子³⁾、酒井 俊郎²⁾、小沼 祐一²⁾、幸田 久平²⁾、後藤 吉延¹⁾
旭川赤十字病院 薬剤部¹⁾、旭川赤十字病院 血液腫瘍内科²⁾、
旭川赤十字病院 看護部 緩和ケア認定看護師³⁾

P-109_A 卵巣癌化学療法中の難治性悪心に対してオランザピンからミルタザピンへの変更で著効した1症例

○今城 宏文、古川 卓也、久保田 豊、深沢 建一、清水 普子、土屋由紀子、斉藤 和彦
長野市民病院 薬剤部

P-110_B 抗がん剤誘発食欲不振マウスに対するEPA強化栄養剤の影響

○田代 真弓¹⁾、小藤あずさ¹⁾、山田 岳史²⁾、内田 英二²⁾、吉澤 一巳¹⁾
東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室¹⁾、日本医科大学 消化器外科²⁾

P-111_C カペシタビン投与2日目に白質脳症の初期症状を呈した1例

○南 玲子¹⁾、押野谷 実¹⁾、源田 裕子²⁾、山楯 清美²⁾、石川 聡子³⁾、中野 達夫³⁾、
紺谷 智⁴⁾
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 薬剤部¹⁾、
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 看護部²⁾、
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 外科³⁾、
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 神経内科⁴⁾

P-112_A 肝動脈化学塞栓療法における制吐療法の評価

○塩坂 育子、平野 和加、村上 通康、仙波 昌三
松山赤十字病院 薬剤部

P-113_B がん患者における非定型抗精神病薬による薬剤性嚥下障害の実態調査とリスク因子の検討

○小室 雅人、元永 伸也、高橋 邦雄、市田 泰彦、齋藤真一郎
国立がん研究センター東病院 薬剤部

P-114_C 大腸がん SOX ± Bevacizumab 療法の当院における使用状況と副作用の調査

○岡野 希、森嶋 隆、福地 吉輝
小張総合病院 薬剤部

P-115_A シスプラチン併用化学療法における腎障害予防対策

○勝山 里佳、保坂 裕紀、樋熊 聡子、小田麻衣子、西 久美子、大箭 彰
新潟県立新発田病院 薬剤部

P-116_B 当院における食道癌症例に対する化学放射線治療の現状

○刀祢加津子¹⁾、井口 倫明¹⁾、朝田 絵吏¹⁾、志野 訓之¹⁾、辻本 牧子²⁾、橋本 泰年³⁾、
山下 晃司¹⁾、野村 泰生¹⁾
済生会中和病院 薬剤部¹⁾、済生会中和病院 栄養サポートチーム²⁾、
済生会中和病院 放射線科³⁾

P-117_C KM-CART（腹水濾過濃縮再静注法）により栄養状態が改善した末期胃がん患者
～難渋する大量腹水がコントロールできた1事例～

○榎本 美幸¹⁾、金丸 絵理¹⁾、中尾 照逸²⁾、山田 忍²⁾、益倉 智美²⁾、藤田 忍³⁾
宝生会 PL 病院 薬剤部¹⁾、宝生会 PL 病院 緩和ケアサポートチーム²⁾、
宝生会 PL 病院 消化器内科³⁾

P-118_A がん化学療法後に出現した悪心・倦怠感に対するステロイドの有効性

○樋口美奈子、佐々木好美、岩坪沙奈恵、和田 依子、河野 友里、檜山 智子、中野 行孝
公立学校共済組合 九州中央病院 薬剤科

P-119_B 大腸がん化学療法施行時のデキサメサゾン投与によるがん患者の血糖値・ヘモグロビン A1c
に及ぼす影響

○里見真知子¹⁾、山崎 弘貴¹⁾、河野 透²⁾
医療法人社団慈成会東旭川病院¹⁾、医療法人社団徳洲会札幌東徳洲会病院²⁾

P-120_C ホスアプレピタントメグルミン点滴静注時の血管障害への対応の検討

○古賀 聖子¹⁾、石山 明人¹⁾、池田 喬哉²⁾
佐世保市立総合病院 薬剤部¹⁾、佐世保市立総合病院 呼吸器内科²⁾

P-121_A レゴラフェニブ服薬患者の副作用発現調査と副作用対策への取り組み

○齋藤茉莉絵、吉田 知香、西迫 多重
公益社団法人 益田医師会立 益田地域医療センター 医師会病院

P-122_B 頭頸部癌におけるセツキシマブ投与患者の皮膚症状への薬剤師の介入

○加戸 愛子、久戸瀬なおみ
岡山済生会総合病院 薬剤科

P-123_C 化学放射線療法 weekly CDDP に対して“パロノセトロン+アプレピタント+デキサメタゾン day1 のみ投与”は高い嘔吐抑制効果を示した

○太田 一郎、小池 博文、小宮 幸子、西川 能治
横浜市立大学附属病院 薬剤部

P-124_A 当院外科病棟におけるアカシジアの2症例

○内藤 裕之¹⁾、中丸 朗¹⁾、城戸 啓²⁾、田村 光²⁾
那須赤十字病院 薬剤部¹⁾、那須赤十字病院 外科²⁾

P-125_B 苦痛緩和の鎮静におけるミダゾラム投与量の調査

○茂木 孝裕¹⁾、野崎 歩¹⁾、岩根 裕紀¹⁾、小林 由佳¹⁾
京都桂病院 薬剤科¹⁾、京都桂病院薬剤科²⁾

P-126_C がん性腹膜炎等による嘔気嘔吐に対して制吐薬を多用しアカシジアが発症した症例

○花岡 容子、小林 重子、土屋 清美、小野沢真由美、馬場 浩介
JA 長野厚生連北信総合病院 緩和ケアチーム

P-127_A 外出希望患者に対し、症状コントロールに取り組んだ症例

○荒田美帆子¹⁾、吉村 光弘¹⁾、三松 史野¹⁾、五島 悠太²⁾、宮原 裕子²⁾、村岡 淳二¹⁾
京都市立病院 薬剤科¹⁾、京都市立病院 血液内科²⁾

P-128_B フルルビプロフェンアキセチルの持続静注により安定した解熱効果を得られた症例

○増野 貴司¹⁾、古池きよみ²⁾、上野 裕美²⁾、堤 教明¹⁾、塩谷真里子^{2,3)}、吉田 光典⁴⁾、
石崎 政利²⁾
公立藤岡総合病院 薬剤部¹⁾、公立藤岡総合病院 緩和ケアチーム²⁾、
公立藤岡総合病院 放射線科³⁾、公立藤岡総合病院 産婦人科⁴⁾

P-129_C 良性耳下腺腫瘍からの出血などにモーズ軟膏を使用した1症例

○間瀬 広樹¹⁾、久保川直美¹⁾、杉浦 彩子²⁾、伊藤 一弘¹⁾
国立長寿医療研究センター 薬剤部¹⁾、国立長寿医療研究センター 耳鼻咽喉科²⁾

P-130_A ジェムザール注射用からゲムシタビン点滴静注液への変更時における血管痛の発現比較調査

○明石 直子、田中麻理子、平岡 暖子、吉野 宗宏、田中 三晶
独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター 薬剤科

P-131_B PEGからのモルヒネ徐放性製剤投与で在宅療養が可能となった1症例

○鈴木 敦詞¹⁾、鈴木 大吾¹⁾、前田 剛司¹⁾、坂田 洋¹⁾、佐藤 雄二²⁾
春日井市民病院 薬剤部¹⁾、春日井市民病院 耳鼻咽喉科²⁾

P-132_C がん患者における腹満症状に対するオピオイドの効果について ～オピオイド使用に関する実態調査～

○須貝 壮衆¹⁾、高柳 論也¹⁾、渡邊 基之¹⁾、黒岩 彩乃¹⁾、濃沼 政美²⁾、平井 栄一³⁾、
小坂 好男¹⁾
東京女子医科大学 八千代医療センター 薬剤部¹⁾、
帝京平成大学 薬学部 医薬品安全性評価学²⁾、
東京女子医科大学 八千代医療センター 消化器外科³⁾

P-133_A せん妄が患者の疼痛評価に及ぼす影響に関する調査

○市田 泰彦¹⁾、齊藤真一郎¹⁾、小川 朝生²⁾
国立がん研究センター 東病院 薬剤部¹⁾、国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍部²⁾

P-134_B 薬剤師が参画した「せん妄対策チーム」介入の有用性～せん妄ハイリスク薬管理による予防対策の効果～

○本郷 志帆¹⁾、村川 公央^{2,3)}、四宮 一昭¹⁾、北村 佳久^{1,2)}、千堂 年昭²⁾
岡山大学 薬学部 薬学科¹⁾、岡山大学病院 薬剤部²⁾、岡山大学病院 せん妄対策チーム³⁾

P-135_C 造血細胞移植患者の移植前の精神状態の検討

○米田 舞^{1,2,6)}、石井 貴男^{1,2,6)}、佐藤 明美^{1,3)}、水口 亜紀^{1,4,6)}、井山 諭⁵⁾、
鵜飼 渉²⁾、渡辺 明彦^{1,4,6)}、橋本 恵理²⁾、山蔭 道明^{4,6)}
札幌医科大学附属病院 緩和ケアチーム¹⁾、札幌医科大学附属病院 神経精神科²⁾、
札幌医科大学附属病院 看護部³⁾、札幌医科大学附属病院 麻酔科⁴⁾、
札幌医科大学附属病院 第4内科⁵⁾、札幌医科大学 アイン・ニトリ緩和医療学推進講座⁶⁾

P-136_A がん患者の背景因子と精神疾患発症の関連性—肺がん患者および疼痛・転移の背景因子との関連—

○金本恵里佳¹⁾、鍛冶園 誠²⁾、北村 佳久^{1,2)}、千堂 年昭²⁾
岡山大学 薬学部 臨床薬剤学¹⁾、岡山大学病院 薬剤部²⁾

P-137_B 精神的不安が身体的疼痛に影響を及ぼした1症例

○村田 智弘、與田 賢作、日高 美緒、平川 雅章
福岡徳洲会病院 薬剤部

P-138_C フェンタニルクエン酸塩舌下錠の適正使用における緩和ケアチームの関わり

○井上 由貴^{1,2)}、平井 俊明^{1,2)}、江草 徳幸^{1,2)}、島居 孝恵²⁾、森元真由美²⁾、高澤 信好²⁾、
寺岡 雄史³⁾、平野 巨通³⁾、石川 哲大⁴⁾
JA 広島厚生連 尾道総合病院 薬剤科¹⁾、JA 広島厚生連 尾道総合病院 緩和ケアチーム²⁾、
JA 広島厚生連 尾道総合病院 消化器内科³⁾、石川内科外科クリニック⁴⁾

P-139_A 緩和ケア病棟新設におけるモルヒネ指示表の作成と今度の課題

○徳川 由佳¹⁾、宗 宏伸²⁾、堀 正三¹⁾、谷口紀美子³⁾、櫻井 香織³⁾、芳野 美和⁴⁾
共愛会 戸畑リハビリテーション病院 薬剤科¹⁾、共愛会 戸畑共立病院 外科²⁾、
共愛会 戸畑リハビリテーション病院 看護科³⁾、共愛会 戸畑共立病院 薬剤科⁴⁾

P-140_B 麻薬管理指導加算の効率的な算定に向けた課題の抽出

○日高あづみ¹⁾、市村 綾¹⁾、細野 浩之¹⁾、大野 智²⁾、有賀 悦子³⁾、渡邊真知子¹⁾
帝京大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、帝京大学 医学部 臨床研究医学講座²⁾、
帝京大学 医学部 緩和医療学講座³⁾

P-141_C フェンタニル即効性製剤の院内導入における取り組みについて

○木南 志朗、内山 弘子、石本 昌裕
独立行政法人 労働者健康福祉機構 新潟労災病院 薬剤部

P-142_A 介護職との連携で最期まで在宅で過ごすことができた独居の一症例

○西澤さとみ、滝澤 康志
飯山赤十字病院 薬剤部

P-143_B 抗がん剤治療開始時の患者の意思決定に対する緩和ケアチームの関与について

○龍宮真生子^{1,2)}、吉岡奈津恵¹⁾、松原 操^{2,6)}、西本 幸代²⁾、小林 真也^{2,3)}、竹澤 祐一^{2,4)}、
上村 秀樹^{2,5)}、岡村 和哉^{2,5)}、大西 竜哉^{2,7)}、北村芽衣子⁶⁾
奈良県総合医療センター 薬剤部¹⁾、
奈良県総合医療センター がんサポートチーム（緩和ケアチーム）²⁾、
奈良総合医療センター 腫瘍内科³⁾、奈良県総合医療センター 呼吸器内科⁴⁾、
奈良県総合医療センター 精神科⁵⁾、奈良県総合医療センター 看護部⁶⁾、
奈良県総合医療センター リハビリ部⁷⁾

P-144_C オピオイド服用中の放射線皮膚炎のある肺癌患者に対し、薬剤師と看護師の連携により、適切な医療材料等を用いたことで疼痛の改善が認められた1例

○畑瀬 圭佐^{1,3)}、重富佳奈子²⁾、大瀬 栄理²⁾、下河 美紀²⁾、吉田久美子^{2,3)}、西田 修¹⁾
地方独立行政法人 大牟田市立病院 薬剤部¹⁾、地方独立行政法人 大牟田市立病院 看護部²⁾、
地方独立行政法人 大牟田市立病院 緩和ケアチーム³⁾

P-145_A 長期にわたる放射線化学療法時に多職種で介入・サポートした一例

○岩本 千絵、田村美奈子、畑中 智子
東大阪市立総合病院 薬剤医療技術局 薬剤科

P-146_B 地域緩和ケアセンターにおける薬剤師の活動について

○深谷 幸代¹⁾、渡邊 祥子²⁾、山内加寿巳²⁾、岩田 修一¹⁾
愛知県がんセンター愛知病院 薬剤部¹⁾、愛知県がんセンター愛知病院 看護部²⁾

P-147_C チームの協働により在宅で過ごすことのできた一例

○川口 洋実、勝又 一雄、内田 直人、小林 義典、北村 修
富士宮市立病院 薬剤部

P-148_A IV-PCA 使用時の薬剤師による説明の有用性と有効性・安全性に及ぼす影響

○平田 一耕¹⁾、伊藤 正輝¹⁾、鈴木 正論¹⁾、石塚 寛和¹⁾、川名真理子¹⁾、永井 淳子¹⁾、
廣井 麻代²⁾、完戸 香³⁾、吉沼 裕美⁴⁾、関根 龍一⁵⁾、佐々木忠徳¹⁾
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部¹⁾、医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 経営企画室²⁾、医
療法人鉄蕉会 亀田総合病院 看護管理部³⁾、医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 麻酔科⁴⁾、
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科⁵⁾

P-149_B ترامadol塩酸塩 / アセトアミノフェン配合錠による嘔気対策の現状調査

○山崎 愛子、日下 豊史、揚張真利子、栗原 梢、後藤 貴裕、安藤奈津子、瀧 祐介
菊川市立総合病院 薬剤科

P-150_C 緩和ケア委員会発足前後における終末期がん患者の輸液量の比較

○後藤 勝博、菊池 謙宏、元木 孝、高柳 昌宏、千田 泰健
釧路赤十字病院 薬剤部

- P-151_A 適切な輸液メニューの提案により在宅移行が可能となった血管作動性腸管ポリペプチド産生腫瘍の一例
 ○橋詰 淳哉¹⁾、出口 雅浩²⁾、福田 浩子³⁾、川本 裕美⁴⁾、龍 恵美¹⁾、川崎 浩二⁴⁾、佐々木 均¹⁾、樋口 則英¹⁾
 長崎大学病院 薬剤部¹⁾、出口外科医院²⁾、長崎大学病院消化器内科³⁾、長崎大学病院地域医療連携センター⁴⁾
- P-152_B フェンタニル速放製剤の導入における薬剤師の関わりについて
 ○武嶋 常^{1,4)}、磯部 公美¹⁾、山田 夕紀^{3,4)}、畠山 禎^{1,4)}、渡邊美佐子^{2,4)}、細川 浩代^{2,4)}、浅岡 靖子¹⁾、斎藤 恭正^{1,4)}、井上 清孝¹⁾
 厚木市立病院 薬剤管理指導室¹⁾、厚木市立病院 看護局²⁾、厚木市立病院 栄養管理指導室³⁾、厚木市立病院 緩和ケアチーム⁴⁾
- P-153_C 医療用麻薬の指導率改善に向けた取り組み
 ○島袋朝太郎、渡慶次憲彦、仲田有希代、伊波 美幸、平良 恵、長濱 照美
 社会医療法人 敬愛会 中頭病院
- P-154_A 外来オピオイド使用患者における緩和ケアチーム薬剤師の関わりと今後の課題
 ○山口 文子、山口 文子、北岡 晃、齋藤亜紗子、國谷 滯、角田奈津美、佐藤 透
 社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院 薬剤部
- P-155_B がんと診断された時から終末期に至るまで薬剤師が継続的に介入できた一症例
 ○大矢 浩之、藤本 英哲、下田 将司、大野 悟史、駒橋 亜耶、八木 啓太、鍵山 智樹、佐野 元彦、大澤雄一郎、岸野 亨
 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部
- P-156_C 高齢者医療における薬剤師の役割 第2報
 ○平野 泰子、古井久仁子、神坐美弥子、吉成 徹、菊田 浩章、古泉 幸直
 国際医療福祉大学病院 薬剤部
- P-157_A 緩和ケアチーム（PCT）内における薬剤師の積極的介入の必要性
 ○近藤 慎哉¹⁾、柏原 尚央²⁾、江口 由紀³⁾、坂田麻理子³⁾、杉井 健祐³⁾、下良みのり³⁾、平山 美幸³⁾、田中 宏⁴⁾
 医療法人橘会 東住吉森本病院 技術部 薬剤科¹⁾、東住吉森本病院 緩和ケア病棟師長²⁾、東住吉森本病院 緩和ケアチーム³⁾、東住吉森本病院 緩和ケア病棟管理医師⁴⁾
- P-158_B 高用量レスキューのアドヒアランス維持に難渋した1症例
 ○幣 千智、岩根 裕紀、野崎 歩、小林 由佳
 京都桂病院 薬剤科
- P-159_C 薬剤師の積極的な関与により疼痛コントロールが良好となった進行食道癌患者をふまえて一病院薬剤師の立ち位置を考える
 ○押野谷 実¹⁾、南 玲子¹⁾、石本 菜々²⁾、山楯 清美²⁾、金本 斐子³⁾、中野 達夫³⁾
 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 薬剤部¹⁾、医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 看護部²⁾、医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 外科³⁾
- P-160_A 薬剤師が緩和医療に介入する事による臨床的效果について
 ○柘植 友考
 みなと医療生活協同組合 協立総合病院 薬局

P-161_B 医療用麻薬外来導入患者への病院薬剤師による支援とその評価

○中村 和代、岩崎奈緒江、櫻井 健史、木村 緑、角入 壽彦
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院

P-162_C 薬剤師の介入により疼痛緩和が得られた一症例～フェンタニル耐性が疑われた事例～

○上田 武司、植田真由美、西川かおり、植原 誠、鶴田 洋平、石坂 忠博
加古川東市民病院 薬剤部

P-163_A 認定看護師と連携して行う薬剤師緩和ケアラウンドの有用性と課題

○松田 朋子¹⁾、佐々木千夏¹⁾、大門 未沙¹⁾、荒木 陽子²⁾、橋本 昌幸¹⁾
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 薬剤部¹⁾、医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 看護部²⁾

P-164_B フェンタニル速報製剤使用における薬剤師の関わり

○上森美和子¹⁾、加藤 文²⁾、加藤奈緒子¹⁾、塚本佳帆里¹⁾、東海 佐和¹⁾、阪上 陽一¹⁾、
田川 高巴¹⁾、西川 裕¹⁾、坂井 大介³⁾
彩都友誼会病院 薬剤部¹⁾、彩都友誼会病院 腫瘍外科²⁾、
大阪大学大学院医学系研究科 外科系臨床医学 消化器癌先進化学療法開発学³⁾

P-165_C 進行卵巣癌患者との8年間の関わり

○板倉 由縁¹⁾、西田 裕一²⁾
碧南市民病院 薬剤部¹⁾、碧南市民病院 産婦人科²⁾

P-166_A 疼痛コントロールに難渋した大腸癌の1症例

○福留 るみ、田邊 徹、向井 俊貴、柿元 郁代、福岡 龍一
川内市医師会立市民病院 薬剤部

P-167_B オキシコドン速放製剤による体動時痛制御に難渋した再発食道癌の一症例

○是永 智美¹⁾、菅田 佳子¹⁾、重松 明美¹⁾、青山 佳正²⁾、釘宮 睦博²⁾、森 一生¹⁾
大分市医師会立アルメイダ病院 薬剤部¹⁾、大分市医師会立アルメイダ病院 外科²⁾

P-168_C 泌尿器科病棟における疼痛管理の状況とその問題点に対する薬剤師の関与

○大平 真也、山田 啓太、水上 皓喜、高山 良、坂井 隆太、田中りかえ、福島 信雄、
日浦 和徳
国家公務員共済組合連合会 呉共済病院

P-169_A 長期的かつ継続的に緩和ケアを提供するために薬剤師ができること

○山田 智子¹⁾、岩崎 祐子¹⁾、高橋 正裕²⁾、内野奈美子³⁾
姫路聖マリア病院 薬剤部¹⁾、姫路聖マリア病院 薬剤部²⁾、
姫路聖マリア病院 緩和ケア内科³⁾、姫路聖マリア病院 看護部⁴⁾

P-170_B PCA ポンプ運用への取り組み

○小松 智子¹⁾、藤田奈緒子¹⁾、安田 礼子¹⁾、菅沼 利行²⁾
公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市うわまち病院 薬剤部¹⁾、
公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市うわまち病院 外科²⁾

P-171_C 当院における患者サポート体制の課題

○伴野 一樹
軽井沢町国民健康保険 軽井沢病院

P-172_A 要介護区分別の調剤応需状況及び使用薬剤にみる薬剤師の関わり

○濱地 優作¹⁾、永瀬 航¹⁾、井上 俊¹⁾、大木 潤一¹⁾、白熊 怜史¹⁾、百瀬 晴彦²⁾、
竹内 大悟³⁾
薬樹訪問健ナビ株式会社¹⁾、一般社団法人ソーシャルユニバーシティ²⁾、薬樹株式会社³⁾

P-173_B 薬剤師・看護師主体型オピオイドカンファレンスの導入

○佐藤 公彦、佐藤 希笑、千葉 由幸、佐藤 和人
独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター 薬剤科

P-174_C フェンタニルのレスキュー製剤導入における緩和ケアチームの取り組み

○田中 佑佳、牧野 哲平、葛谷 命、長谷川貴昭、石黒 崇、田村 量哉、杉山 保幸
岐阜市市民病院 緩和ケアチーム

P-175_A 緩和ケアチーム介入により疼痛・身体症状の改善がみられた1症例 —疼痛コントロールに難渋した1症例—

○須田 奈美¹⁾、林 隼輔^{1,2)}、角田真由美^{1,5)}、川久保 孝²⁾、伊藤 達彦^{1,4)}、下山 直人^{1,3)}
東京慈恵会医科大学附属病院 緩和ケアチーム¹⁾、東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部²⁾、
東京慈恵会医科大学附属病院 麻酔科学講座 緩和ケア室³⁾、
東京慈恵会医科大学附属病院 精神神経科⁴⁾、東京慈恵会医科大学附属病院 看護部⁵⁾

P-176_B 当院での医療用麻薬の自己管理マニュアル作成後の取り組み

○杉浦 龍也^{1,2)}、伊藤 広樹²⁾、山口 恵²⁾、守山 浩子^{1,3)}、日比野佳菜^{1,3)}、岡田 祐二^{1,4)}
JA三重厚生連 いなべ総合病院 緩和委員会¹⁾、JA三重厚生連 いなべ総合病院 薬剤部²⁾、
JA三重厚生連 いなべ総合病院 看護部³⁾、JA三重厚生連 いなべ総合病院 外科⁴⁾

P-177_C 入院患者における医療用麻薬の自己管理について

○久保 弥生、鳥山 陽子、富澤 達
独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター 薬剤科

P-178_A 医療用麻薬自己管理推進への取り組みと薬剤師の意識調査

○志田 敏宏^{1,4)}、山川真由美^{2,4)}、鹿野たかね^{3,4)}、大滝 和幸^{1,4)}、鈴木 幸子^{3,4)}、
豊口 禎子¹⁾、白石 正¹⁾
山形大学 医学部 附属病院 薬剤部¹⁾、山形大学 医学部 附属病院 疼痛緩和内科²⁾、
山形大学 医学部 附属病院 看護部³⁾、山形大学 医学部 附属病院 緩和ケアチーム⁴⁾

P-179_B 非がん・高齢者疾患も対象に加えた緩和ケアチームの試み～ End Of Life Care Team における薬剤師の役割～

○久保川直美^{1,4)}、横江由理子^{2,4)}、西川 満則^{3,4)}
国立長寿医療研究センター 薬剤部¹⁾、国立長寿医療研究センター 看護部²⁾、
国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部³⁾、
国立長寿医療研究センター End Of Life Care Team⁴⁾

P-180_C 医療用麻薬についてのアンケート調査

○金子 睦志¹⁾、長井 悠輔¹⁾、渡辺 一也¹⁾、水島 美由紀²⁾、鈴木 和吉¹⁾、羽入 修吾²⁾、
藤原 正博²⁾
JA 新潟厚生連 柏崎総合医療センター 薬剤部¹⁾、
JA 新潟厚生連 柏崎総合医療センター 緩和ケアチーム²⁾

P-181_A フェンタニル貼付剤1／2枚貼りマニュアル作成と看護師アンケート

○北村 修、川口 洋実、小林 義典、小林 豊、井尻真理子、中川由里可、勝又 一雄
富士宮市立病院 薬剤部

P-182_B 速放性フェンタニル製剤導入に伴うオピオイド鎮痛薬適正使用に向けた緩和ケアチームの取り組み

○西 悠吾^{1,2)}、永瀬 怜司^{1,2)}、上原 望²⁾、小保内早苗¹⁾、濱中 伸介¹⁾、菅野 浩²⁾
済生会横浜市東部病院 緩和ケアチーム¹⁾、済生会横浜市東部病院 薬剤部²⁾

P-183_C 医療用麻薬服用患者におけるレスキュー薬の自己管理体制の構築

○吉羽真由美^{1,2)}、折井 修子²⁾、大河内真弓¹⁾、山本 泰子¹⁾、中島 輝一¹⁾、大木 崇弘¹⁾、
日比 徹¹⁾
秀和総合病院 薬剤部¹⁾、秀和総合病院 緩和ケアチーム²⁾

P-184_A 当院におけるオピオイド回診の現状と有効性について

○山田 郁恵¹⁾、鈴木 聡子²⁾、遠藤 征裕¹⁾、森川 和夫¹⁾、山崎 豊³⁾
JA 秋田厚生連 由利組合総合病院 薬剤科¹⁾、看護部²⁾、麻酔科³⁾

P-185_B 麻薬内服薬の患者管理に関する職員の意識調査

○南 貴之^{1,2)}、向山 明彦^{1,2)}、芝山 結香^{1,2)}、花輪 和己¹⁾、深沢 久美^{2,4)}、
宮久保朱実^{2,4)}、許山 美和^{2,3)}、阿部 文明^{2,3)}、磯部 克彦¹⁾
山梨県立中央病院 薬剤部¹⁾、山梨県立中央病院 緩和ケアチーム²⁾、
山梨県立中央病院 緩和ケア科³⁾、山梨県立中央病院 看護部⁴⁾

P-186_C 緩和ケアチームによる医療用麻薬自己管理への取り組み

○伊藤妃佐子¹⁾、大久保佳津美^{2,3)}、山田 仁映^{2,3)}、川瀬佳津子^{2,3)}、土田 敬^{2,4)}、
谷 一彦^{2,5)}
福井県済生会病院 薬剤部¹⁾、福井県済生会病院緩和ケアチーム²⁾、福井県済生会病院看護部³⁾、
福井県済生会病院緩和医療科・外科⁴⁾、福井県済生会病院緩和医療科・こころの診療科⁵⁾

P-187_A 緩和ケアチーム介入開始時点での疼痛および不安の症状評価と薬剤調整の検討

○西川美沙子¹⁾、山田 彩華²⁾、矢野 淳子²⁾、高橋 尚子³⁾、秋山 修³⁾、石田 耕太¹⁾、
植松 和子¹⁾、遠藤 巖¹⁾
日本赤十字社医療センター 薬剤部¹⁾、日本赤十字社医療センター 看護部²⁾、
日本赤十字社医療センター 緩和ケア科³⁾

P-188_B 看護師を対象とした院内オピオイド使用指針と新様式等鎮痛用量換算表に関する講習会の理解度評価

○木下 仁淑¹⁾、木下 仁淑¹⁾、工藤 貴弘²⁾、横山 智央³⁾、石川 あさ⁴⁾、田村 和彦³⁾
総合病院厚生中央病院 緩和ケアチーム薬剤師¹⁾、
総合病院厚生中央病院 医薬品情報室薬剤師²⁾、
総合病院厚生中央病院 緩和ケアチーム医師³⁾、
総合病院厚生中央病院 緩和ケアチーム看護師⁴⁾

P-189_C 障害者支援施設におけるがん末期患者の希望をかなえるための薬局薬剤師の関わり

○金子 雅好、田中 裕加、三目 桂子、山星 紫穂、坂本 裕美、西前多香哉
中央薬局

P-190_A 当院におけるオピオイド・スクリーニング活動（オピオイド回診）の有用性に関する検討

○赤瀬 博文^{1,4)}、西尾 智尋^{2,4)}、嶋本 藍^{1,4)}、大路 貴子^{3,4)}、後藤 たみ^{3,4)}、
田中 詳二¹⁾
神戸市立医療センター西市民病院 薬剤部¹⁾、神戸市立医療センター西市民病院 総合内科²⁾、
神戸市立医療センター西市民病院 看護部³⁾、
神戸市立医療センター西市民病院 緩和ケアチーム⁴⁾

P-191_B 在宅緩和ケア患者の増加に備えて～訪問薬剤師として身につけるべき視点を考える～

○前田 桂吾¹⁾、白石 丈也²⁾、串田 一樹³⁾
株式会社フロンティアファーマシー¹⁾、けや木薬局²⁾、昭和薬科大学³⁾

P-192_C 病院薬剤師の在宅訪問～病院薬剤師の関与が在宅患者の不安を解消できた症例～

○山崎 由香、長久 栄子、深谷 香織、山本 智子、横山 豊明、河相 寛
真生会富山病院 緩和ケアチーム

P-193_A 定時用強オピオイド鎮痛薬を持参して入院した患者の主訴とコンプライアンス～在宅訪問時の観察・確認ポイント～

○田幸 稔、矢島 明
長野赤十字病院 薬剤部 薬剤師

P-194_B 疑義照会から見た在宅医療における薬剤師の役割

○高木 恭子、石元 秀和、上松 豊、林 美智子、藤田 幸子、菊田 基
トマト薬局

P-195_C 退院支援へ薬剤師が積極的に関与した1症例

○西倉 奈央¹⁾、鈴木 智子¹⁾、山田 尚枝¹⁾、藤井 達郎¹⁾、門村 将太¹⁾、奥田 絵美²⁾、
富永 史子²⁾、濱中 英里³⁾、原口 文彦⁴⁾、福田由布子¹⁾、井藤 達也¹⁾
JCHO 札幌北辰病院 薬剤科¹⁾、JCHO 札幌北辰病院 栄養管理室²⁾、
JCHO 札幌北辰病院 看護部³⁾、JCHO 札幌北辰病院 麻酔科⁴⁾

P-196_A 積極的な抗がん剤治療の適応がなくなった終末期がん患者の入院時使用薬剤と在宅診療導入における関連性の検討

○山口茉都夏¹⁾、島田 直樹²⁾、藤原 紀子^{2,3)}、渡邊 文^{1,2)}、安 武夫¹⁾、
黒川 陽介¹⁾、岩瀬 哲²⁾
東京大学医科学研究所附属病院薬剤部¹⁾、東京大学医科学研究所附属病院緩和医療科²⁾、
東京大学医科学研究所附属病院看護部³⁾

P-197_B 在宅緩和医療にむけて退院調整が困難だった1症例

○北村 祐子^{1,2)}、青柳 哲治^{1,2)}、吉田 晴香²⁾、寺井 智子²⁾、堀口 朋美²⁾、川崎 博行³⁾
福井赤十字病院 薬剤部¹⁾、福井赤十字病院 緩和ケアチーム²⁾、木田らひふ薬局³⁾

P-198_C フェンタニルレスキュー薬における舌下錠とバツカル錠の比較アンケート調査～看護師の視点から～

○清水 圭子、高儀佳代子、細川 朋弘、安藤 智美
高松市民病院 薬剤局

P-199_A 持続皮下注用携帯型インフューザーポンプを使用した疼痛マネジメントの調査研究

○熊谷 修一¹⁾、木本 真司¹⁾、安達 亮平¹⁾、河原 史明¹⁾、香内 綾¹⁾、安齊 泰裕¹⁾、
長野 満帆¹⁾、小椋 和子²⁾、渡部 晴美²⁾、渡邊 睦弥³⁾、塩川 秀樹¹⁾
竹田総合病院 薬剤科¹⁾、竹田総合病院 看護部²⁾、竹田総合病院 緩和ケア科³⁾

P-200_B 医療用麻薬導入時における WHO 除痛ラダー第一段階薬剤の処方実態

○高取 秀人^{1,2)}、長岡 裕二¹⁾、橋間 伸行^{1,2)}、柚木三由起²⁾、乗松 有加²⁾、
瀬戸川勝敏²⁾、後藤 卓也^{1,2)}、高柳 和代¹⁾、奥村 裕英¹⁾、太田 健介²⁾、桑井 幸雄¹⁾
大阪府済生会中津病院 薬剤部¹⁾、大阪府済生会中津病院 緩和ケアチーム²⁾

P-201_C 星ヶ丘医療センター肺がん患者における鎮痛剤使用状況

○加地 真、塚谷紗耶香、大井 隆広、道下 佳子
星ヶ丘医療センター

P-202_A 経口医療用麻薬導入時の処方実態

○長岡 裕二¹⁾、高取 秀人^{1,2)}、橋間 伸行^{1,2)}、柚木三由起²⁾、乗松 有加²⁾、
瀬戸川勝敬²⁾、後藤 卓也^{1,2)}、高柳 和代¹⁾、奥村 裕英¹⁾、太田 健介²⁾、桑井 幸雄¹⁾
大阪府済生会中津病院 薬剤部¹⁾、大阪府済生会中津病院 緩和ケアチーム²⁾

P-203_B 医療用鎮痛薬における家庭残薬による誤用リスク

○天川 雅彦、佐藤 元重、杉山 憲司、岡田 啓
株式会社 スギ薬局

P-204_C 医療従事者に対するフェンタニルレスキュー製剤の使用感に関するアンケート調査

○橋本 昌幸、大門 未沙、佐々木千夏、松田 朋子
宇治徳洲会病院

P-205_A 麻薬自己管理の適性化に向けた取り組み～アンケート調査による状況把握～

○工藤 浩史^{1,2)}、吉野 景子^{1,2)}、濱也 智子^{1,3)}、幸阪 貴子^{1,3)}、宮野 早苗^{1,2)}、
小島千恵美^{1,3)}、岩崎多津代^{1,3)}、大中 俊宏^{1,4)}、千田 昌之²⁾、久保田篤史²⁾、鈴木 義彦²⁾
(独) 国立病院機構 東京医療センター 緩和ケアチーム¹⁾、
(独) 国立病院機構 東京医療センター 薬剤科²⁾、
(独) 国立病院機構 東京医療センター 看護部³⁾、
(独) 国立病院機構 東京医療センター 診療部⁴⁾

P-206_B フェンタニル貼付剤後発品に関する調査・考察

○森 宏幸、山崎 直樹、大谷 司、竹内 昌司
大阪府立総合医療センター 薬剤部

P-207_C フェンタニル速放製剤（バツカル錠・舌下錠）プラセボ薬（製剤見本）の使用感の比較検討

○和田 紀子¹⁾、柏原 由佳¹⁾、樋口比登実²⁾、脇谷美由紀³⁾、高橋 雅子³⁾、村山純一郎¹⁾
昭和大学病院 薬剤部¹⁾、昭和大学病院 緩和医療科²⁾、昭和大学病院 看護部³⁾

P-208_A 看護学生の麻薬に対する意識調査

○星野 真之^{1,2)}、星野 寿恵¹⁾、澁川 知成^{1,2)}、鈴木 伶織^{1,2)}、野村 早苗^{2,3)}、姫野 知子^{2,3)}、
大塚 園子^{2,3)}、篠塚 一美¹⁾、蜂矢 隆彦^{2,4)}
春日部市立病院 薬剤科¹⁾、春日部市立病院 緩和ケアチーム²⁾、春日部市立病院 看護部³⁾、
春日部市立病院 泌尿器科⁴⁾

P-209_B 研修医に対して薬剤師主導による緩和医療教育への取り組み

○高橋 典哉¹⁾、小野寺春菜¹⁾、船水 祐里¹⁾、菊地 英行¹⁾、田村 乾一²⁾、本庄 伸輔³⁾
岩手県立中部病院 薬剤科¹⁾、岩手県立中部病院 臨床研修委員会委員長²⁾、
岩手県医療局業務支援課³⁾

P-210_C 麻薬管理指導加算算定のためのテンプレート作成によるカルテ記載項目の統一化

○高木 洋明^{1,2)}、鬼窪 利英^{1,2)}、堀内 美香^{1,2)}、保科 滋明²⁾
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 緩和ケア支援チーム¹⁾、
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 薬剤管理情報センター²⁾

- P-211_A 薬剤科内の緩和ケア教育体制構築のむけた取り組み～薬学的介入による緩和ケアの質向上を目的として～
 ○青木 均文、鯉淵 寛之、南雲 史雄、長野 もも瀬、平田 彩子、関根 寿一
 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院 薬剤科
- P-212_B 地域薬剤師を対象とした教育プログラムに対する参加者ニーズ調査～岡山緩和ケア薬剤師グループ活動報告（第6報）～
 ○八道 智絵^{1,2)}、今村 牧夫^{1,3)}、猪田 宏美^{1,4)}、芝崎由美子^{1,5)}、森 英樹^{1,6)}
 岡山緩和ケア薬剤師グループ (Okayama Palliative care Pharmacists Group;OPPG)¹⁾、
 大阪府済生会吹田病院 薬剤部²⁾、倉敷成人病センター 診療支援部³⁾、岡山大学病院 薬剤部⁴⁾、
 埼玉県立がんセンター 薬剤部⁵⁾、岡山赤十字病院 薬剤部⁶⁾
- P-213_C 三重大学医学部附属病院薬剤部における緩和ケア勉強会が若手薬剤師の症例介入に及ぼす影響
 ○佐藤 亮、岡本 明大、濱口 直美、赤阪 未来、須藤 宏文、水谷 栄梨、宮本 明希、
 村木 優一、奥田 真弘
 三重大学 医学部 附属病院 薬剤部
- P-214_A がん性疼痛緩和への情報共有ツールを用いた標準化業務への取り組み
 ○谷本 陽子^{1,2)}、小川 智子^{1,2)}、武田 ヒサ^{2,3)}、古川 順章^{1,2)}、小林 勝昭¹⁾、所 昭宏^{2,4)}
 近畿中央胸部疾患センター 薬剤科¹⁾、近畿中央胸部疾患センター 支持・緩和療法チーム²⁾、
 近畿中央胸部疾患センター 看護部³⁾、近畿中央胸部疾患センター 心療内科⁴⁾
- P-215_B 薬局薬剤師による薬剤管理指導の課題に関する一考察～緩和薬物療法認定薬剤師の申請を契機として～
 ○坂本亜矢子¹⁾、小橋 紀子¹⁾、十市 隆弘²⁾、唐澤 淳子²⁾、鈴木 順子³⁾
 株式会社 ヒューメディカ 汐田薬局¹⁾、株式会社 ヒューメディカ 新つるみ薬局²⁾、
 北里大学薬学部 社会薬学部部門³⁾
- P-216_C 在宅医療支援病棟専任薬剤師による地域在宅連携への関わり
 ○木ノ下智康¹⁾、久保川直美¹⁾、上地小与里⁴⁾、銘苅 尚子³⁾、伊藤 一弘¹⁾、古田 勝経²⁾、
 三浦 久幸²⁾
 国立長寿医療研究センター 薬剤部¹⁾、国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部²⁾、
 国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域連携診療部³⁾、愛知県薬剤師会 地域医療部会⁴⁾
- P-217_A 東京都区西部（新宿区、中野区、杉並区）の保険薬局にける緩和ケア連携推進のための現状調査
 ○金子 健^{1,2)}、高松 登³⁾、伊東 俊雅⁴⁾、東 加奈子⁵⁾、木村理恵子¹⁾、橋口さおり¹⁾、
 山口 雅也²⁾、岡本真一郎^{2,6)}
 慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター¹⁾、慶應義塾大学病院 薬剤部²⁾、東京都薬剤師会³⁾、
 東京女子医科大学病院 がんセンター緩和ケア室⁴⁾、東京医科大学病院 薬剤部⁵⁾、
 慶應義塾大学 医学部 内科学教室血液内科⁶⁾
- P-218_B 在宅緩和医療推進のための医療・介護ネットワーク構築への試み～地域のコアとなる看護師・薬剤師の人材育成に向けて～
 ○加藤 種子¹⁾、浅井 奈美²⁾、下鶴 紀之³⁾、竹内 千草⁴⁾、松井由美子⁵⁾、松浦 明海⁶⁾、
 杉本 由佳⁷⁾
 (株)海部調剤 かいなん調剤薬局¹⁾、西尾病院居宅介護支援事業所²⁾、
 あすわひのきケアプランセンター³⁾、あしたば訪問看護ステーション⁴⁾、
 エム・ケア介護センター⁵⁾、名古屋市守山区訪問看護ステーション⁶⁾、
 すぎもと在宅医療クリニック⁷⁾

- P-219_C 平成 26 年度診療報酬改定「在宅医療推進」に向けて保険調剤薬局との連携体制強化への取り組み
○萬谷摩美子^{1,5)}、武田佐知子¹⁾、黒屋 謙吾¹⁾、山田 祐司²⁾、平方 眞²⁾、笠原 彩子³⁾、
大山 泰史⁴⁾、吉原 史裕⁴⁾、中村代志子⁴⁾、井原むつ子⁵⁾
医療法人愛和会 愛和病院 yakuzaiibu¹⁾、医療法人愛和会 居町往診クリニック²⁾、
医療法人愛和会 訪問看護ステーション愛和³⁾
- P-220_A 第 1 回西脇多可圏域在宅緩和ケア研修会開催に当たって ～アンケート調査の結果から～
○小林 宗仁¹⁾、岸本 光正¹⁾、藤本 有紀²⁾、橋本かおり²⁾、臼井 尚子²⁾、木原 章雄³⁾、
三輪 教子⁴⁾、木村 祥子⁵⁾
西脇市立西脇病院 薬剤部¹⁾、西脇市立西脇病院 看護局²⁾、西脇市立西脇病院 精神科³⁾、
西脇市立西脇病院 乳腺外科⁴⁾、西脇市立西脇病院 内科⁵⁾
- P-221_B 介護職員を対象としたがん、緩和ケア領域における研修実施効果
○中野 宜範¹⁾、土井 信幸²⁾
日本生科学研究所日生薬局大山店¹⁾、高崎健康福祉大学 薬学部 臨床薬学教育センター²⁾
- P-222_C 薬業連携の実践 ～保険薬局薬剤師と病院薬剤師の相互理解のために～
○宮崎 信子、中村 文香、越川 貴史
医療法人社団 杏順会 越川病院
- P-223_A フェンタニルパッチに保護用テープ使用時の皮膚温度に関する研究～在宅患者の思いに答える
薬業連携～
○栗木 玲子¹⁾、牧原 俊康²⁾、覚前有希子²⁾、山中 幸典³⁾、鈴木 秀明⁴⁾、天川 雅彦⁵⁾、
橋村 孝博⁶⁾
医療法人社団輝和会 濃成病院¹⁾、藤田保健衛生大学病院 薬剤部²⁾、松阪厚生病院 薬剤部³⁾、
あんず薬局⁴⁾、スギ薬局⁵⁾、めいぶる薬局⁶⁾
- P-224_B がん患者に対して保険薬局との薬業連携カンファレンスの有用性
○山内 隆史¹⁾、藤原隆一郎²⁾、大野 成司²⁾、長谷川憲子²⁾、清家 美砂²⁾、加藤 裕子²⁾、
島本 真由²⁾、小田原大祐¹⁾、竹内 信人¹⁾、五十崎俊介¹⁾
市立宇和島病院 薬局¹⁾、愛ファーマシー株式会社 あんず薬局²⁾
- P-225_C 薬業連携への取り組みと在宅医療に移行した腎細胞癌患者の疼痛管理の 1 症例
○浜元 孝¹⁾、上島 聖秀¹⁾、高橋慎太郎¹⁾、能澤真希子¹⁾、森谷 道生¹⁾、畠山 規明²⁾、
能村 修³⁾、炭岡 孝志⁴⁾、清河 雄介⁵⁾、石浦 嘉之⁶⁾、河井 良智¹⁾
富山労災病院 薬剤部¹⁾、たんぼぼ薬局²⁾、シメノドラッグ³⁾、すみれ薬局⁴⁾、
本江うえるね薬局⁵⁾、富山労災病院 泌尿器科⁶⁾
- P-226_A 保険薬局における、がん告知状況の把握が医療用麻薬の服薬指導に与える影響
○小竹 泰子^{1,3)}、小林 貴志^{1,3)}、坪野 俊広^{2,3)}、
済生会新潟第二病院 薬剤部¹⁾、済生会新潟第二病院 外科²⁾、
済生会新潟第二病院 緩和ケアチーム³⁾
- P-227_B 速放性オピオイド (Rapid Onset Opioid) の導入と適正使用への取り組み
○山崎富士子¹⁾、安西 彩子¹⁾、松久 哲章¹⁾、正木 克美²⁾、齋藤 千恵²⁾、宮武 和代³⁾、
片山 英樹³⁾
独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター 薬剤科¹⁾、
独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター 看護科²⁾、
独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター 緩和ケア科³⁾

P-228_C 医療用麻薬の自己管理に対する医療従事者の意識調査

○佐藤 明美^{1,7)}、団塚 恵子¹⁾、小野 聡子^{1,2)}、吉岡 薫^{3,7)}、大森 克哉^{3,7)}、米田 舞^{4,7)}、石井 貴男^{5,7)}、水口 亜紀^{6,7)}、渡邊 昭彦^{6,7)}

札幌医科大学附属病院 看護部¹⁾、札幌医科大学附属病院 医療連携・総合相談センター²⁾、札幌医科大学附属病院 薬剤部³⁾、

札幌医科大学附属病院 アイン・ニトリ緩和医療学推進講座⁴⁾、

札幌医科大学附属病院 神経精神医学講座 麻酔科学講座⁵⁾、

札幌医科大学附属病院 麻酔科学講座⁶⁾、札幌医科大学附属病院 緩和ケアチーム⁷⁾

P-229_A 医療安全と調剤室から考える医療用麻薬の管理～全中止処方から見えること～

○永倉 史子^{1,2)}、杉本あかね¹⁾、佐久間晴之^{1,2)}、小杉 満孝¹⁾、岡山 和広^{1,2)}、山内 泰一^{1,2)}
イムスグループ 板橋中央総合病院 薬剤部¹⁾、板橋中央総合病院 医療安全委員会²⁾

P-230_B フェンタニルレスキュー製剤の安全な導入方法の検討

○豊田由里絵^{1,2)}、坂本 康寛^{2,3)}、綱田 友江²⁾、菅原 幸恵²⁾、二瓶 恭子²⁾、菅原 丈愛¹⁾、千葉 英雄¹⁾、渡邊 裕美²⁾、高橋 雄大²⁾、蒲生真紀夫^{2,3)}、今野 文博²⁾
大崎市民病院 薬剤部¹⁾、大崎市民病院 緩和ケアチーム²⁾、大崎市民病院 腫瘍内科³⁾

P-231_C 富士宮市立病院におけるオピオイド処方管理の現状と課題

○小林 義典、川口 洋実、勝又 一雄、北村 修
富士宮市立病院 薬剤部

P-232_A 「緩和医療における薬剤師業務等の実態調査 - 第2弾 - 」

診療報酬改定後の薬剤師による在宅業務の動向～健康保険・介護保険対策委員会企画～

○稲葉 一郎¹⁾、今村 光一²⁾、川出 義浩³⁾、高橋 眞生⁴⁾、萩田 均司⁵⁾、萬谷摩美子⁶⁾、二村 昭彦⁷⁾、鈴木 順子⁸⁾

薬局セントラルファーマシー長嶺¹⁾、鶴友会 鶴田病院 診療技術部薬剤科²⁾、

名古屋第二赤十字病院 薬剤部³⁾、カネマタ薬局⁴⁾、薬局つばめファーマシー⁵⁾、

医療法人愛知会 愛知病院 薬局⁶⁾、藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 薬剤課⁷⁾、

北里大学 薬学部 薬学教育研究センター⁸⁾

P-233_B オキサリプラチンによる末梢神経障害に対するプレガバリンの費用対効果

○石原 正志、吉見 千明、飯原 大稔、藤井 宏典、山田 摩耶、西垣美奈子、小森 善文、鈴木 昭夫、伊藤 善規

岐阜大学医学部附属病院 薬剤部